



⚠ ご使用前には必ず取扱説明書をよく読んでください。

取扱説明書

TRACER
TRACER900 GT

B1J-28199-J0

ヤマハ車をお買いあげいただきありがとうございます。

この取扱説明書には、お買いあげいただいた車の正しい取り扱い方法や安全な運転のしかた、日常点検、簡単な定期点検整備などについて説明してあります。

車は万一取り扱いを誤ると、重大な事故やケガ、トラブルの原因となります。

車の正しい取り扱いをご理解いただくため、運転される前に必ず本書をお読みください。

また、メンテナンスノート、セーフティガイド（バイクをより安全にお乗りいただくためのアドバイス）もあわせてお読みください。

本書では、正しい取り扱いおよび点検整備に関する重要な事項を下記のシンボルマークで表示しています。

	安全にかかわる注意情報を示してあります。
 警告	取り扱いを誤った場合、死亡、重傷・傷害に至る可能性が想定される場合を示してあります。
注意	取り扱いを誤った場合、物的損害の発生が想定される場合を示してあります。
要 点	正しい操作のしかたや点検整備上のポイントを示してあります。

車の受け取りの際には、お買いあげいただいた販売店から「取扱説明書」「メンテナンスノート」「セーフティガイド」「車両受け渡し確認書」を受け取り、以下の説明を必ずお受けください。

- 車の正しい取り扱い方法
- 日常点検、定期点検整備
- 保証内容および保証期間

※ 車をゆずるときには、次の持ち主のために本書もお渡しください。

※ 仕様の変更などにより、本書の図や内容が一部実車と異なることがありますのでご了承ください。

もくじ

安全運転のために 1-1	小物入れ..... 3-33	エアクリーナーエレメントの交換..... 6-6
あなた自身と同乗者のために..... 1-1	ウインドシールド..... 3-33	タイヤ..... 6-7
歩行者と他の車のために..... 1-5	ハンドル位置の調整..... 3-34	クラッチ..... 6-8
環境・住民の方との調和のために..... 1-6	フロントフォークの調整..... 3-34	ブレーキレバーの遊び／ ブレーキペダルの遊び、および ブレーキのきき具合の点検..... 6-9
各部の名称 2-1	リヤクッションの調整..... 3-36	ブレーキランプスイッチの点検..... 6-9
左側面..... 2-1	ブレーキレバーの握り調整..... 3-37	ブレーキパッドの点検..... 6-10
右側面..... 2-2	DC ジャック..... 3-37	ブレーキ液量の点検..... 6-10
運転装置と計器類..... 2-3	DC コネクター..... 3-38	ドライブチェーン..... 6-11
各部の取り扱いと操作 3-1	サイドスタンド..... 3-38	ドライブチェーンの給油..... 6-12
キーの取り扱い..... 3-1	イグニッションサーキット カットオフシステム..... 3-39	バックミラー..... 6-12
イモビライザーシステム..... 3-1	日常点検 4-1	車体各部の給油脂状態の点検..... 6-13
メインスイッチ..... 3-2	日常点検の実施..... 4-1	アンダーブラケットの 取り付け状態の点検 (ステアリングシステム)..... 6-13
ハンドルスイッチ..... 3-3	日常点検箇所／点検内容..... 4-1	バッテリー..... 6-13
警告灯と表示灯..... 3-5	運転操作 5-1	ヒューズ交換..... 6-15
クルーズコントロールシステム..... 3-8	エンジン始動..... 5-1	灯火装置および方向指示灯の点検..... 6-17
ディスプレイ..... 3-10	ギヤチェンジのしかた..... 5-2	運行において異常が認められた 箇所の点検..... 6-17
メニュー画面..... 3-14	ブレーキ..... 5-2	
盗難警報器 (別売アクセサリ)..... 3-23	ならし運転..... 5-3	
D-mode (ドライブモード)..... 3-23	駐車..... 5-3	
シフトペダル..... 3-24	点検整備 6-1	お車の手入れ 7-1
クイックシフトシステム..... 3-24	点検整備の実施..... 6-1	洗車..... 7-1
ABS..... 3-24	サービスツール..... 6-2	アルミフレーム、 キャストホイールの取り扱い..... 7-2
トラクションコントロール システム..... 3-25	カバーの取り外し、取り付け..... 6-2	保管のしかた..... 7-2
フェューエルタンクキャップ..... 3-27	エンジンオイル..... 6-3	アフターケア用品について..... 7-3
燃料..... 3-28	エンジンのかかり具合、 異音の点検..... 6-4	
シート..... 3-28	低速、加速の状態の点検..... 6-5	
ライダーシートの高さ調整..... 3-29	冷却水..... 6-5	
ヘルメットホルダー..... 3-31		
書類入れ..... 3-32		

製品仕様.....8-1

ユーザー情報.....9-1

二輪車を廃棄する場合は？ 9-1

サービスマニュアル（別売）の

紹介..... 9-2

車両情報..... 9-2

索引.....10-1

安全運転のために

1

JAU27281

この章には、特に知っておいていただきたいこと、守っていただきたいことなどの基本的なアドバイスを述べてあります。運転するときには、次のことを守って安全運転および上手な操作を心がけてください。

安全運転とは、交通ルールを守ることでなく、ほかの人々が安全に通行できるように配慮することです。

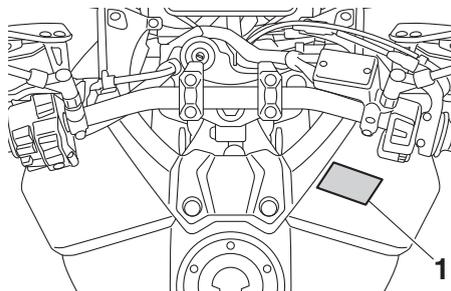
JAU2737A

あなた自身と同乗者のために

安全項目ラベルについて

運転に慣れてきますと、いろいろな注意を忘れがちになり、事故を起こすことがあります。

車に乗るときには、安全項目ラベルの注意事項をいつも守り、安全運転に心がけてください。



1. 安全項目ラベル

安全運転は正しい服装から

- ヘルメットは必ず着用してください。ヘルメットはPSCまたはSG、JISマークのある二輪車用を必ず着用してください。ヘルメットは正しくかぶり、必ずあごひもをしめます。頭にしっかり合せて、圧迫感のないものが最適です。
- グローブを必ず着用してください。グローブは、摩擦に強い皮製のものが適しています。
- ヘルメットにシールドを着用してください。着用できないときは、ゴーグルを使用してください。
- 運転する服装は以下のことを確認して選び、着用してください。疲労を少なくし、万一の転倒時には身体を保護します。
 - 保護性の高い服で明るく目立つ色のもの
 - 動きやすく、体の露出が少ない長袖・長ズボン



警告

- 取扱説明書をよく読んで安全な運転をしましょう。
- ヘルメットを正しくかぶりましょう。
- マフラーは熱くなります。人が触れにくい場所に駐車する等の配慮をしましょう。
- ヘッドランプを昼間はロービーム点灯しましょう。
- 違法改造はやめましょう。
- 定められた点検整備をメンテナンスノートに従って励行しましょう。



- 以下のような服装は運転操作のじゃまになります。また、回転部分に巻き込まれたり高熱になる部分に接触したりして、思わぬ事故の原因にもなりますので、着用しないでください。
 - スボンのすそや袖口の広い服
 - 衣服の飾り物や紐など、長すぎる装飾がある服
 - ロングスカートやロングマフラーなどの体に密着しない服

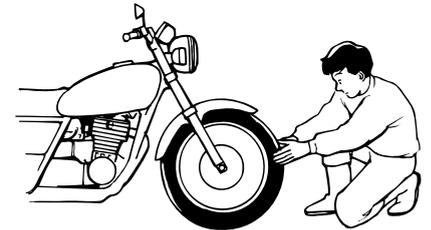
- 靴はかかとが低く、運転操作がしやすいものを着用してください。また、くるぶしまで覆われていて足にピッタリしたものを選んでください。
- 同乗者にも上記の注意を守らせてください。

⚠ 警告

ヘルメットを正しくかぶっていないと、万一の事故の際、死亡または重傷に至る可能性が高くなります。運転者と同乗者は、必ずヘルメットをかぶり、正しい服装で乗車してください。

日常点検、定期点検整備を必ず行う

事故や故障を防ぐため、法令で定められた日常点検を行ってください。また、法令で定められた1年、2年ごとに行う定期点検も必ず実施してください。



車の異状

次のような場合は、車が故障しているおそれがあります。そのままにしておくと、走行に悪影響をおよぼしたり、事故につながるおそれがあり危険です。販売店で点検・整備を受けてください。

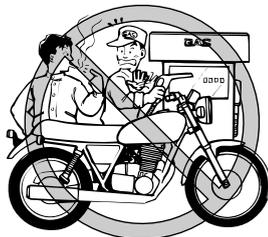
安全運転のために

1

- 異音がしたり、異臭や異常な振動があるとき。
- 地面にオイルなどが漏れた跡があるとき。
- 燃料、冷却水のにじみまたは漏れた跡があるとき。

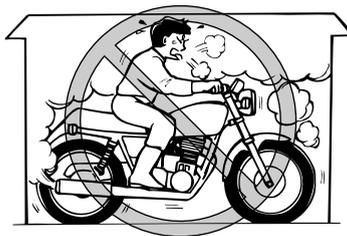
給油時は火気厳禁

ガソリンは揮発性が高く、引火しやすい燃料です。給油時は必ずエンジンを止め、火気を近づけないでください。

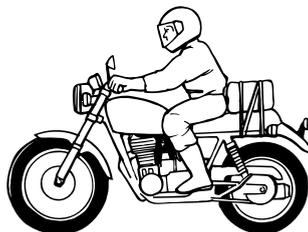


風通しの悪い場所でエンジンを始動しない

排気ガスには、一酸化炭素などの有害な成分が含まれています。風通しの悪い場所や屋内でエンジンをかけると、ガス中毒を起こす危険があります。エンジンの始動は風通しのよい屋外で行ってください。



荷物はしっかり固定する

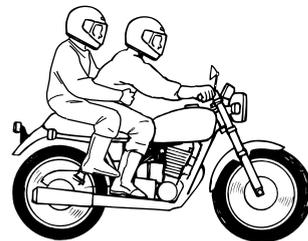


- 荷物を積むと、積まないときに比べて操縦安定性が変わります。荷物はしっかりと固定し、積み過ぎないように注意してください。
- ハンドルの近くには、荷物など、物を置かないでください。ハンドルの近くに物を置くと、ハンドル操作を妨げる場合があります。

- ヘッドライトの前を荷物などでさえぎらないようにしてください。ライトの熱によりヘッドライトのレンズが変色、溶損したり、荷物にまでその不具合がおよぶこともあります。
- マフラー、エンジンなどの熱くなる場所へ荷物などの物が触れないようにしてください。

両手はハンドル、両足はフットレスト

- 運転するときには、両手でハンドルを握り、両足をフットレストにのせます。
- 同乗者には、両手で体をしっかり固定させ、両足を必ずフットレストにのせさせます。



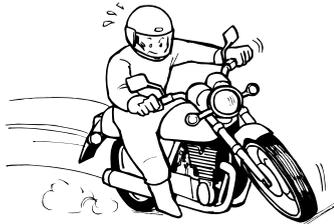
乗車定員は2名

ただし、免許取得後1年未満の運転者は、法令により2人乗りはできません。

また、高速道路（2人乗りが許可されている高速道路）においては、20才以上で、免許取得後3年を経過した運転者でなければ2人乗りはできません。

急激なハンドル操作や片手運転はしない

急激なハンドル操作や片手運転は、横すべりや転倒の原因となります。絶対にしないでください。



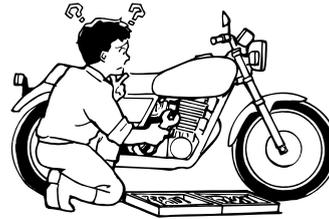
誤った方法でエンジンを停止しない

誤った取り扱いをすると、マフラーの中の触媒装置が異常に高温になり、損傷するおそれがあります。次のような操作はしないでください。

- 走行中にメインスイッチやエンジンストップスイッチでエンジンを停止する。
- 空ぶかし直後にエンジンを停止する。

自己流のエンジン調整、部品の取り外しはしない

エンジン調整はヤマハ販売店におまかせください。



JCA15221

注意

部品交換が必要な場合は正規の規格のものを使用するよう、販売店へ依頼してください。規格が異なった部品を使用すると、故障などの原因となります。

継続検査（車検）を受ける

二輪の小型自動車（251cm³以上）は、国で定める継続検査を受けなければ使用できません。また、初回の継続検査は新規登録日から3年後に受け、2回目以降の継続検査はその後2年ごとに受けます。

検査の有効期間満了前に必ず、継続検査を受けてください。



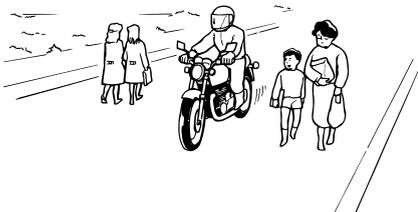
安全運転のために

1 歩行者と他の車のために

JAU27504

他の人への思いやり

- 交通ルールを守り、まわりの歩行者や車の動きに注意し、相手の立場について思いやりの気持ちをもって通行しましょう。
- 周囲の状況に注意して、安全なスピードで走行してください。歩行者や自転車のそばを通るときは、安全な距離を保つか徐行してください。



駐車

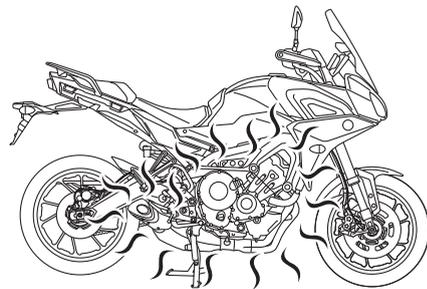
- 盗難予防のため、車から離れるときは必ずハンドルロックをかけ、キーをお持ちください。また、チェーンロックなどのサイクルロックも同時に使用することをおすすめします。
- 交通のじゃまにならない場所に駐車してください。

- 平坦な場所に駐車してください。やむをえず、傾斜地や柔らかい地面などの不安定な場所に駐車するときは、転倒や動き出しのないようにしてください。
- 車から離れる前に、スタンドが確実にセットされているかを確認してください。

JWA12241

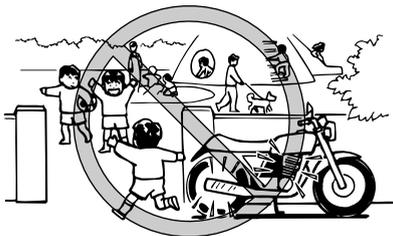
警告

- エンジン回転中および停止後、しばらくの間はマフラーやエンジンなどが熱くなっています。触れるとヤケドをすることがありますので、注意してください。また、物などが直接触れないようにしてください。
- 駐車は、通行する人がマフラーやエンジンなどに触れない場所に行ってください。
- マフラーの中の触媒装置は高温になります。枯れ草や紙、オイル、木材など、燃えやすいものがある場所には駐車しないでください。



昼間はヘッドライトを下向きに

この車両は自動昼間点灯仕様です。他の車や歩行者へ注意をうながし、自分の存在を知らせるためです。対向車がまぶしくないように、ライトは下向きを使ってください。

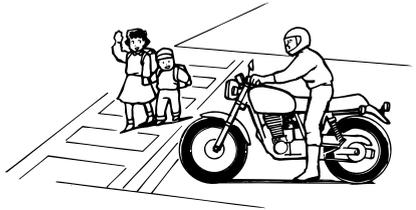


環境・住民の方との調和のために

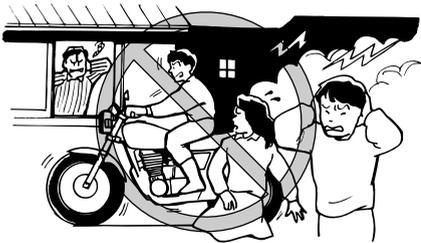
JAU27582

住民の方への思いやり

自分の都合だけを考えて、沿道の方に不愉快な騒音などの迷惑をかけないでください。

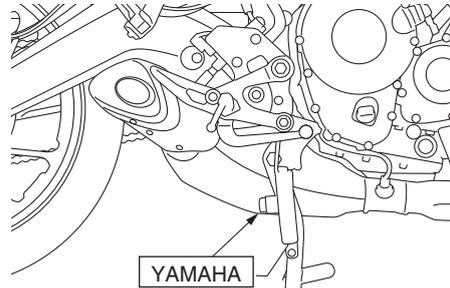


特に深夜の住宅街や人通りの多い道路などで長時間のアイドリングや急発進などを行うと、迷惑になりますのでしないでください。



違法改造はしない

- 違法改造は法律により禁止されています。改造は操縦安定性を悪くしたり、排気音を大きくして車の寿命を縮めたり、重大な事故や故障の原因となります。また、改造すると車の保証が受けられません。
- この車は、排出ガス規制適合車です。マフラーには排出ガスを浄化する触媒装置が内蔵されています。他のマフラーをこの車に取り付けると、排出ガス規制に適合しなくなる可能性があります。マフラーを交換する場合は、お買いあげのヤマハ販売店にご相談ください。なお、ヤマハ純正部品のマフラーには“YAMAHA”マークが刻印されています。



環境への配慮

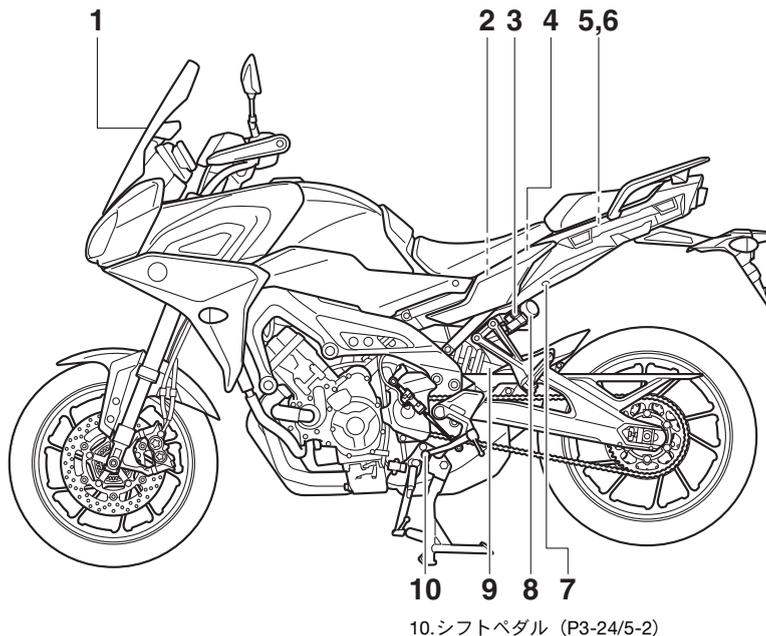
廃車をするときや、バッテリー、廃油などの廃棄処理をするときは、環境保護のためお買いあげのヤマハ販売店にご相談ください。

各部の名称

JAU10411

左側面

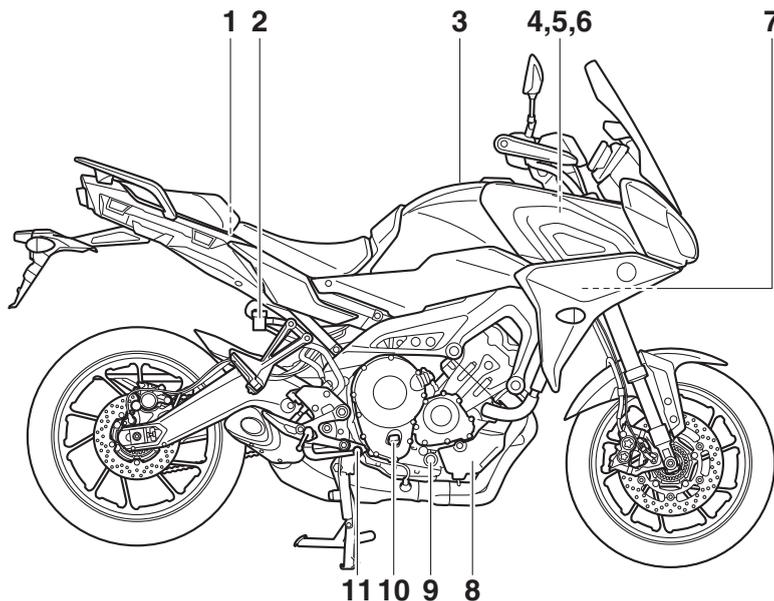
2



1. ウィンドシールド (P3-33)
2. バッテリー (P6-13)
3. ヘルメットホルダー (P3-31)
4. ヒューズ (P6-15)
5. 小物入れ (P3-33)
6. サービスツール (P6-2)
7. シートロック (P3-28)
8. スプリングブリロードアジャスター (P3-36)
9. 伸側減衰力アジャスター (P3-36)

10. シフトペダル (P3-24/5-2)

右側面



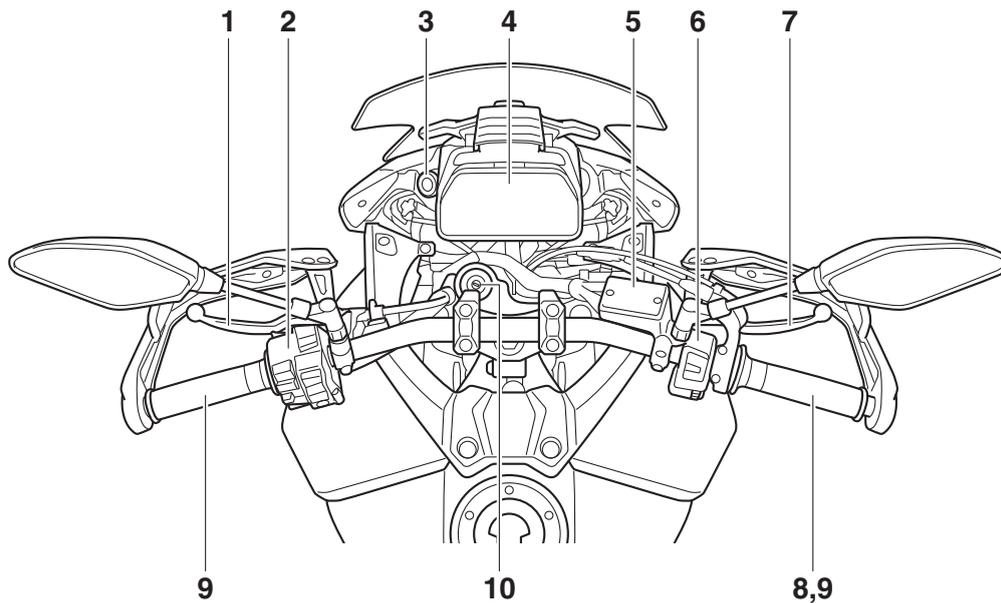
1. ヘルメットホルダー (P3-31)
2. リヤブレーキリザーバータンク (P6-10)
3. フューエルタンクキャップ (P3-27)
4. 伸側減衰力アジャスター (P3-34)
5. 圧側減衰力アジャスター (P3-34)
6. スプリングプリロードアジャスター (P3-34)
7. ヒューズ (P6-15)
8. リカバリタンク (P 6-5)
9. エンジンオイル点検窓 (P6-3)

10. オイル注入口 (P6-3)
11. ブレーキペダル (P6-9)

各部の名称

JAU10431

運転装置と計器類



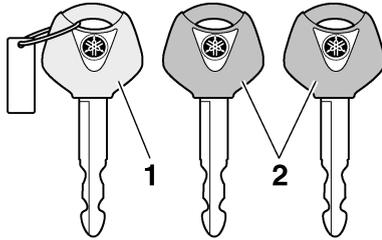
1. クラッチレバー (P6-8)
2. ハンドルスイッチ (左) (P3-3)
3. DC ジャック (P 3-37)
4. ディスプレイ (P3-5/P3-10)
5. フロントブレーキリザーバータンク (P6-10)
6. ハンドルスイッチ (右) (P3-3)
7. ブレーキレバー (P6-9)
8. スロットルグリップ
9. グリップウォーマー (P3-13)

10.メインスイッチ/ハンドルロック (P3-2)

キーの取り扱い

JAU33073

マスコット部が赤いメインキーが1本とマスコット部が黒いサブキーが2本あります。メインキーはサブキーのIDを登録するときに必要な大切なキーですので、普段は車の操作には使用しないでください。車の操作には、必ずサブキーを使用してください。



1. メインキー（赤）
2. サブキー（黒）

JCA12773

注意

キーを取り扱うときには、下記の内容を必ず守ってください。

- メインキーは大切に保管し、紛失しないよう注意してください。メインキーを紛失するとイモビライザーユニットにサブキーのIDを登録することができなくなります。また、3本のキー全てを紛失した場合は、イモビライザーシステムの構成部品全てを交換しなければなりません。

- キーを水に浸けないでください。
- キーを高温になる場所に置かないでください。
- キーに磁気を帯びたものを近づけないでください。
- キーに電波を発信するものを近づけないでください。
- キーを落として強い衝撃を与えたり、重いものを載せたりしないでください。
- キーを削ったり、穴を開けたりして形状を変えないでください。
- キーを分解しないでください。
- 複数のイモビライザーキー（この車のキーも含まれます。）を同じキーリングにつけたり、メインスイッチに他のイモビライザーシステムを近づけたりしないでください。IDの認識を妨げ、エンジンの始動ができなくなることがあります。
- 金属製のキーホルダーは使用しないでください。また、リングなどに複数のキーをつないで使用しないでください。走行中にキーホルダーや他のキーがカバーなどの部品に当たり、傷付きの原因となる場合があります。キーホルダーは、布製または皮製のものをお勧めします。

イモビライザーシステム

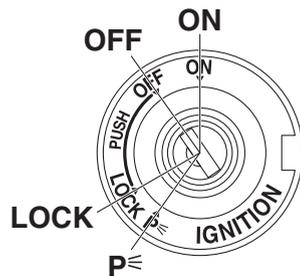
この車には、盗難抑止のためにイモビライザーシステムを装備しています。イモビライザーシステムとは、メインキーおよびサブキーにトランスポンダ（固有のIDを持った発信機）を内蔵しており、あらかじめ車両本体のイモビライザーユニットに登録されたIDのキー以外ではエンジンの始動ができないようにしたシステムです。（詳細は3-7ページを参照してください。）

各部の取り扱いと操作

3

メインスイッチ

JAU10462



メインスイッチはエンジンの始動と停止、ブレーキランプや方向指示灯などの電源の「入/切」、ハンドルロックを行います。

JWA11621



走行中にメインスイッチを OFF や LOCK の位置にすると、電気系統の作動が停止し、事故につながるおそれがあります。メインスイッチは必ず停車中に操作してください。

JCA11972

注意

エンジンをかけないでメインスイッチを ON のままにしたり、エンジン始動後アイドル状態を長時間続けると、バッテリーあがりの原因となります。

要点

盗難予防のため、車から離れるときは必ずハンドルロックをかけ、キーをお持ちください。

ON

JAU10552

全ての電気回路に電源が供給され、メーター灯、テールランプ、ナンバー灯とマーカーランプが点灯し、エンジンを始動させることができます。キーを抜き取ることはできません。

要点

- エンジンが始動すると、ヘッドライトが自動的に点灯します。エンジンが止まってもメインスイッチを OFF にするまで点灯し続けます。
- スタータースイッチを押して、エンジンが始動しないときにもヘッドライトが点灯することがありますが、異常ではありません。

OFF

JAU46011

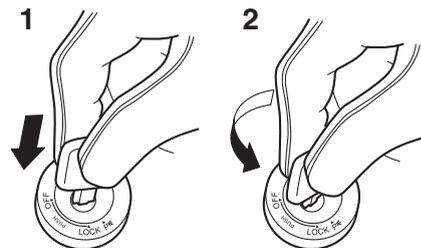
全ての電気回路がオフになり、エンジンが停止します。キーを抜くことができます。

LOCK

JAU1068B

ハンドルがロックされ、全ての電気回路がオフになります。キーを抜くことができます。

ハンドルロックのしかた



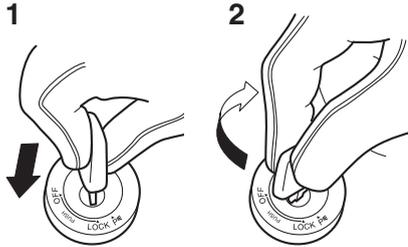
1. 押す
2. 回す

1. ハンドルを左へいっぱいに切ります。
2. OFF の位置でキーを押し込み、そのまま LOCK まで回します。
3. キーを抜きます。

要点

ロックしにくいときは、ハンドルを少し右に動かしながらキーを回します。

ハンドルロックの解除のしかた



1. 押す
2. 回す

LOCK の位置でキーを押し込み、そのまま OFF まで回します。

P \leq (パーキング)

ハザードランプと方向指示灯を点灯させることができますが、その他の電気回路はオフになります。キーを抜くことができます。キーを P \leq にする前に、ハンドルをロックしてください。

JAU59680

JCA20760

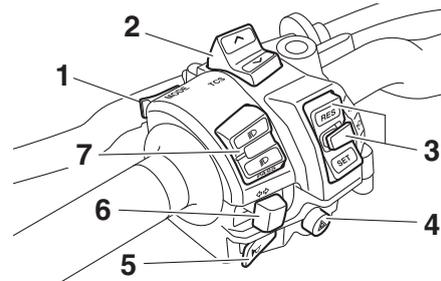
注意

ハザードランプおよび方向指示灯の長時間の使用は、バッテリーあがりの原因になりません。

ハンドルスイッチ

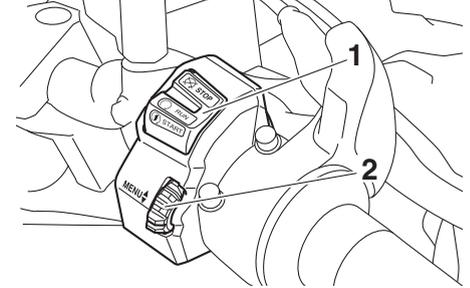
JAU66055

<左>



1. ドライブモードスイッチ “MODE”
2. TCS スイッチ “ \wedge/\vee ”
3. クルーズコントロールスイッチ
4. ハザードスイッチ “ \triangle ”
5. ホーンスイッチ “ \blacksquare ”
6. 方向指示器スイッチ “ \leftarrow/\rightarrow ”
7. ヘッドライト上下切り替え/パッシングライトスイッチ “ \equiv/\equiv /PASS”

<右>



1. スターター/エンジンスタープスイッチ “ \otimes (\circ)/ \otimes ”
2. ホイールスイッチ “MENU \blacklozenge ”

JAU73921

ヘッドライト上下切り替え/パッシングライトスイッチ “ \equiv/\equiv /PASS”

ヘッドライトの配光を上向き、下向きに切り替えたり、パッシング (スイッチを押している間、ヘッドライトの上向きも点灯) させるスイッチです。

\equiv (上向き) : 遠くを照らします。

\equiv (下向き) : 近くを照らします。

要点

先行車や対向車があるときは、ヘッドライトを下向きにしてください。

ヘッドライトの配光が下向きのときに “PASS” 側を押すと、ヘッドライトの上向きも点灯します。先行車の追い越しなどで、他車に合図をするときに使用します。

各部の取り扱いと操作

3

方向指示器スイッチ “◁/▷”

JAU66040

進路変更の合図に使用します。

操作は、進路変更する側にスイッチをスライドさせます。

消灯するときは、スイッチを押します。

▷: 右側の方向指示灯が点滅します。

◁: 左側の方向指示灯が点滅します。

JWA11641



警告

方向指示灯は自動的に消灯しません。使用後は、必ず消灯してください。点滅したままにしておくと、他のかたの迷惑になります。

JCA11983

注意

電球を交換するときは、正規のワット数のものを使用してください。正規のワット数以外のものを使用すると、正常に作動しません。

JAU66030

ホーンスイッチ “”

スイッチを押すとホーンが鳴ります。

要点

必要なときのみ使用してください。

JAU84240

TCS スイッチ “/”

トラクションコントロールシステムの詳細については、3-25 ページを参照してください。

スターター／エンジンストップスイッチ “/○/”

JAU66060

スターターでエンジンを始動するには、このスイッチを “○” に合わせてから、スイッチを “” まで押してください。

JCA11882

注意

- スターターモーターを連続して回転させないでください。消費電力が多いためバッテリーあがりの原因となります。
- エンジンを始動させる前に、5-1 ページの始動手順を参照してください。

非常時に、エンジンをすぐに停止させるには “” にします。通常は “○” にしておきます。

JWA17700



警告

非常時にスターター／エンジンストップスイッチでエンジンを停止させたときは、マフラーやエンジンなどが熱くなっています。ヤケドに注意してください。

JCA20770

注意

- 非常時にスターター／エンジンストップスイッチでエンジンを停止させたときは、必ずメインスイッチを OFF にしてください。ON のままですと、バッテリーあがりの原因となります。

- 走行中に、スターター／エンジンストップスイッチを “○” → “” → “○” にしないでください。エンジンの回転が不円滑となり、エンジン不調の原因となります。

要点

“” にすると、エンジンは始動できません。

JAU66010

ハザードスイッチ “”

メインスイッチを ON または P にした状態で、このスイッチを使用してハザードランプを点滅させます（全ての方向指示器が点滅します）。

ハザードランプは、故障などの非常時に他車に知らせるために使用します。

JCA11891

注意

バッテリーあがりを防ぐため、ハザードランプを長時間使用しないでください。

JAU84250

クルーズコントロールスイッチ

クルーズコントロールシステムの詳細については、3-8 ページを参照してください。

JAU84260

ドライブモードスイッチ “MODE”

ドライブモードの詳細については、3-23 ページを参照してください。

JAU84271

ホイールスイッチ “MENU”

メイン画面にセットされているときは、ホイールスイッチでスクロールをしたり、情報ディスプレイ項目のリセット操作やグリップウォーマーの設定をすることができます。表示がメニュー画面のときは、ホイールスイッチで設定項目を移動させたり、設定の変更をすることができます。

ホイールスイッチは、次のとおり操作します。

上に回す - ホイールを上方向に回すと、上方向に移動させたり、設定の値を増加させたりできます。

下に回す - ホイールを下方向に回すと、下方向に移動させたり、設定の値を減少させたりできます。

短押し - 短くスイッチを押し込むと、選択した内容を確定できます。

長押し - 1秒以上スイッチを押し込むと、情報ディスプレイ項目をリセットしたり、メニュー画面を終了することができます。

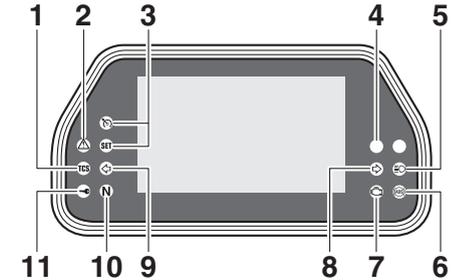
要 点

- グリップウォーマー表示が選択されているか、フューエルトリップメーター (F-TRIP) が表示されている場合を除いて、ホイールスイッチを長押しするとメニュー画面に切り替えられます。
- メイン画面とその機能についての詳細は、3-10 ページを参照してください。

- メニュー画面と設定の変更についての詳細は、3-14 ページを参照してください。

JAU4939F

警告灯と表示灯



1. トラクションコントロールシステム表示灯 “TCS”
2. エンジンオイル・水温警告灯 “△”
3. クルーズコントロール表示灯 “S” / “SET”
4. シフトタイミングインジケータランプ
5. ヘッドライト上向き表示灯 “≡”
6. ABS 警告灯 “⊗”
7. エンジン警告灯 “🔧”
8. 方向指示器表示灯 (右) “⇨”
9. 方向指示器表示灯 (左) “⇦”
10. ニュートラルランプ “N”
11. イモビライザーシステム表示灯 “🔑”

JAU11032

方向指示器表示灯 “⇨”/“⇦”

方向指示器に合わせて点滅します。

JAU11061

ニュートラルランプ “N”

ギヤがニュートラルのとき点灯します。

各部の取り扱いと操作

3

ヘッドライト上向き表示灯 “”

JAU11081

ヘッドライトを上向きにすると点灯します。

クルーズコントロール表示灯 “” / “SET”

JAU58402

クルーズコントロールシステムが作動すると点灯します。(3-8 ページ参照)

要 点

メインスイッチを ON にしたとき、表示灯が数秒間点灯し、その後消灯します。メインスイッチを ON にしたときに表示灯が点灯しない場合や、点灯したままになっている場合は、ヤマハ販売店で車の点検を受けてください。

JAU79310

エンジン警告灯 “”

エンジンに異常が発見されると、この警告灯が点灯します。この場合、ヤマハ販売店で点検を受けてください。

車両の電源をオンにすると、警告灯の電気回路の点検が行われます。警告灯が数秒間点灯し、その後消灯します。

警告灯が全く点灯しない場合や、点灯したままになっている場合は、ヤマハ販売店で点検を受けてください。

JAU69892

ABS 警告灯 “”

メインスイッチを ON にしたとき警告灯が点灯し、走行したあとに消灯します。走行中に ABS 警告灯が点灯したときは、ABS が正しく作動していないおそれがあります。(3-24 ページ参照)

要 点

警告灯が点灯しなかったり、10 km/h 以上の速度で走行したあとに消灯しなかった場合は、直ちにヤマハ販売店で車両の点検を受けてください。

JWA16041

警 告

10 km/h 以上の速度で走行しても ABS 警告灯が消灯しない、または走行中に ABS 警告灯が点灯または点滅したときは、ブレーキシステムは通常のブレーキの状態になっています。上記のどちらかが起こった場合、または ABS 警告灯が全く点灯しない場合は、急ブレーキなどでホイールがロックしないよう、慎重にブレーキをかけてください。直ちにヤマハ販売店でブレーキシステムの点検を受けてください。

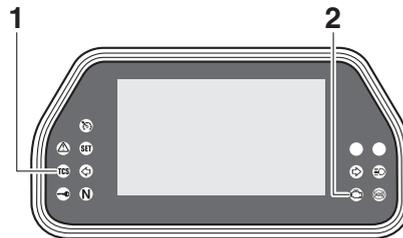
JAU73272

トラクションコントロールシステム表示灯 “TCS”

通常、乗車中は消灯しています。トラクションコントロールが作動すると、トラクションコントロールシステム表示灯が数秒間点滅し、その後消灯します。

トラクションコントロールシステムをオフにすると、トラクションコントロールシステム表示灯が点灯します。

乗車中にトラクションコントロールシステムが解除されたり、異常が発生すると、トラクションコントロールシステム表示灯とエンジン警告灯が点灯します。(トラクションコントロールシステムについて、詳しくは 3-25 ページの説明を参照してください。)



1. トラクションコントロールシステム表示灯 “TCS”
2. エンジン警告灯 “”

注意

エンジンオイル・水温警告灯が、走行中に点灯した場合は、すぐに停車してエンジンを停止してください。

- エンジンがオーバーヒートしているときは、水温警告アイコンが点灯します。エンジンを冷まして、冷却水量を点検してください。(6-5 ページを参照)
- エンジンオイル量が少ないときは、エンジンオイル警告アイコンが点灯します。エンジンオイル量を点検してください。(6-3 ページを参照)
- エンジン冷却後やオイル補充後にも警告灯や警告アイコンが点灯したままの場合は、ヤマハ販売店で車両の点検を受けてください。点検を受けないまま、車両を運転しないでください。

JAU67432

シフトタイミングインジケータースランプ

このインジケータースランプは、シフトアップのタイミングをお知らせします。インジケータースランプが点灯または消灯するエンジン回転数は、お好みの回転数に設定することができます。(3-16 ページ参照)

車両の電源を ON にすると、インジケータースランプの電気回路の診断が行われます。インジケータースランプが数秒間点灯し、その後消灯します。

JAU73120

イモビライザーシステム表示灯 “”

この車は、盗難抑止のためにイモビライザーシステムを装備しています。メインスイッチを “OFF” にすると、イモビライザーシステムが機能し、メインスイッチ OFF 後、約 30 秒間経過するとイモビライザーシステム表示灯が点滅を始めます。その後、約 24 時間経過すると表示灯は消えますが、イモビライザーシステムは機能しています。

表示灯の回路点検のため、メインスイッチを “ON” にすると表示灯がいったん点灯し、すぐに消灯します。

点灯しないときや点灯したままになっているとき、または通常とは異なる周期で点滅するときは、ヤマハ販売店で点検・整備を受けてください。

要点

イモビライザーシステム表示灯が、ゆっくり 5 回、すばやく 2 回の点滅を繰り返すときは、キーの ID の認識が妨げられた可能性があります。この場合は、次のことを試してみてください。

1. 他のイモビライザーキーがメインスイッチの近くにいることを確認します。他のイモビライザーシステムのキーがあると、ID の認識を妨げ、エンジンの始動ができないことがあります。
2. メインキーでエンジンを始動します。
3. エンジンが始動したら、エンジンを止め、サブキーで始動できるか確認します。
4. エンジンの始動ができないキーがあった場合には、車と 3 本全てのキーを持って、ヤマハ販売店でキーの再登録を受けてください。

JAU84281

エンジンオイル・水温警告灯 “”

エンジンオイル量が少ない、もしくはエンジン冷却水温が高いときに、この警告灯が点灯します。この場合、エンジンをすぐに停止してください。

メインスイッチを “ON” にしたときに、警告灯が数秒間点灯し、その後消灯します。警告灯が点灯しない場合や、点灯したままになる場合は、ヤマハ販売店で車両の点検を受けてください。

各部の取り扱いと操作

JAU84940

クルーズコントロールシステム

この車は、一定の速度を維持するためのクルーズコントロールシステムを装備しています。

クルーズコントロールシステムは、4速ギヤ以上で約 50 km/h ~ 100 km/h の間で走行しているときのみ作動します。

JWA16341

3

警告

- クルーズコントロールシステムを誤って使用すると、制御を失い、事故につながる可能性があります。クルーズコントロールシステムは、交通の激しい場所、悪天候時、カーブの多い道、滑りやすい道、斜面、凹凸のある道、または砂利道などで作動させないでください。
- 上り坂または下り坂を走行する場合、クルーズコントロールシステムは設定したクルージングスピードを維持できない可能性があります。
- クルーズコントロールシステムを誤って作動させないため、使用しないときはスイッチを切ってください。クルーズコントロールシステム表示灯“

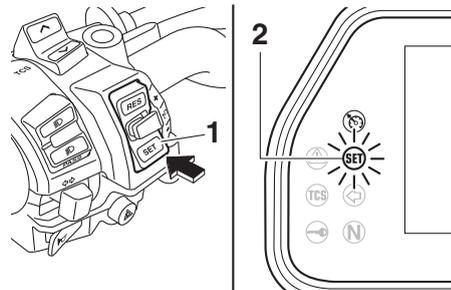
1. クルーズコントロール設定表示灯“SET”
2. クルーズコントロールシステム表示灯“

1. クルーズコントロール設定スイッチ“RES+/SET-”
2. クルーズコントロール電源スイッチ“

クルーズコントロールシステムの作動と設定

1. 左ハンドルのクルーズコントロール電源スイッチ“

1. クルーズコントロール電源スイッチ“
 2. クルーズコントロール設定スイッチの“SET-”側を押して、クルーズコントロールシステムを作動させます。現在の走行スピードがクルージングスピードとして設定され、クルーズコントロール設定表示灯“SET”が点灯します。



1. クルーズコントロール設定スイッチ“RES+/SET-”
2. クルーズコントロール設定表示灯“SET”

各部の取り扱いと操作

設定したクルージングスピードの調整

クルーズコントロールシステムの作動中、クルーズコントロール設定スイッチの“RES+”側を押すと、設定したクルージングスピードが増加し、“SET-”側を押すと設定したクルージングスピードが減少します。

要点

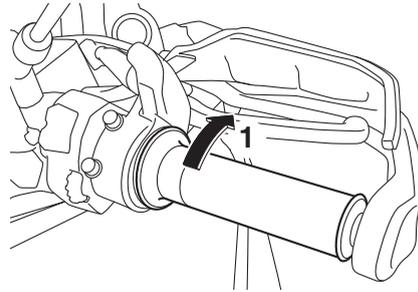
設定スイッチを1度押すごとに、設定スピードが約2.0 km/h変化します。クルーズコントロール設定スイッチの“RES+”側または“SET-”側を押したまま保持すると、スイッチをはなすまで、スピードが連続的に増加または減少します。

走行スピードは、スロットルを使用して手動でも増加することができます。加速した後、設定スイッチの“SET-”側を押すと、新しくクルージングスピードの設定ができます。新しくクルージングスピードの設定をしない場合、スロットルグリップを戻すと、車両は前回設定したクルージングスピードまで減速します。

クルーズコントロールシステムの停止

設定したクルージングスピードを取り消すには、次のいずれかの操作を行います。この操作を行うと、クルーズコントロール設定表示灯“SET”が消灯します。

- スロットルグリップを、全閉位置よりさらに減速方向に回します。



1. 減速方向

- フロントブレーキまたはリアブレーキをかけます。
 - クラッチを切ります。
- 電源スイッチを押して、クルーズコントロールシステムをオフにします。クルーズコントロールシステム表示灯“RES”およびクルーズコントロール設定表示灯“SET”が消灯します。

要点

クルーズコントロールシステムを停止したとき、スロットルグリップを回さないと、すぐに走行スピードが減少します。

再開機能の使用方法

クルーズコントロールシステムを再び作動させるには、クルーズコントロール設定スイッチの“RES+”側を押します。走行スピー

ドが前回設定したクルージングスピードに戻り、クルーズコントロール設定表示灯“SET”が点灯します。

JWA16351

警告

前回設定したクルージングスピードが現在の走行状況に対して速すぎる場合、再開機能を使用することは危険です。

要点

システムの作動中に電源スイッチを押すと、システムは完全にオフになり、前回設定したクルージングスピードが消去されます。再開機能は、新しくクルージングスピードを設定するまで使用できません。

クルーズコントロールシステムの自動停止

このモデルのクルーズコントロールシステムは電子制御されており、その他のコントロールシステムとリンクされています。クルーズコントロールシステムは、以下の条件で自動的に停止します。

- クルーズコントロールシステムが、設定したクルージングスピードを維持できない場合。
- ホイールのスリップまたはホイールのスピンが検出された場合。(トラクションコントロールシステムをオフにしていない場合は、トラクションコントロールシステムが作動します。)

各部の取り扱いと操作

JAU84301

3

- スターター／エンジンストップスイッチを“”にした場合。
- エンジンがストールした場合。
- サイドスタンドが下げられた場合。

設定したクルージングスピードで走行中に、クルーズコントロールシステムが上記の条件で停止した場合、クルーズコントロールシステム表示灯“”は消灯し、クルーズコントロール設定表示灯“SET”は4秒間点滅してから消灯します。

設定したクルージングスピードで走行していない場合は、スターター／エンジンストップスイッチを“”位置に設定すると、エンジンがストールするほか、サイドスタンドが下げられると、クルーズコントロールシステム表示灯“”が消灯します（クルーズコントロール設定表示灯“SET”は点滅しません）。クルーズコントロールシステムが自動的に停止した場合は、停車してから車両が運転に適した状態であることを確認してください。クルーズコントロールシステムは、電源スイッチを使用して作動させてから再度使用してください。

要 点

上り坂または下り坂を走行する際、クルーズコントロールシステムは場合により、設定したクルージングスピードを維持できない可能性があります。

- 上り坂を走行する場合、実際の走行スピードは設定したクルージングスピードを下回る可能性があります。この場合は、スロットルを使用して必要な走行スピードまで加速してください。
- 下り坂を走行する場合、実際の走行スピードは設定したクルージングスピードを上回る可能性があります。この場合、設定スイッチを使用して設定済のクルージングスピードを調整することはできません。減速するにはフロントブレーキまたはリヤブレーキをかけます。ブレーキをかけると、クルーズコントロールシステムは停止します。

ディスプレイ

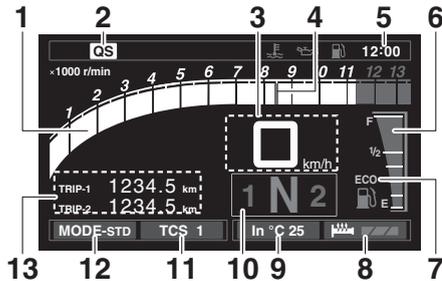
ディスプレイには、次の項目があります。

- スピードメーター
- タコメーター
- 燃料計
- 情報ディスプレイ
- ギヤポジション表示
- ドライブモード表示
- トラクションコントロールシステム表示
- 気温表示
- グリップウォーマー表示
- QS 表示
- 時計
- 最大回転数ホールド表示
- エコ表示
- 燃料残量警告アイコン
- エンジンオイル警告アイコン
- 水温警告アイコン

要 点

このモデルは TFT LCD により、様々な光源下での良好なコントラストおよび見易さを実現しています。しかし、場合によっては少し見えにくい部分が出ることもあります。

各部の取り扱いと操作



1. タコメーター
2. QS 表示
3. スピードメーター
4. 最大回転数ホールド表示
5. 時計
6. 燃料計
7. エコ表示 “ECO”
8. グリップウォーマー表示
9. 気温表示
10. ギヤポジション表示
11. トラクションコントロールシステム表示
12. ドライブモード表示
13. 情報ディスプレイ

JWA18210



設定変更をする前に、必ず車両を停止してください。走行中に設定の変更を行うと、操作に気をとられて事故を起こすおそれがあります。

スピードメーター

スピードメーターは、車両の走行速度を表示します。

要 点

- ディスプレイは、キロメートルとマイルの単位に切り替えができます。切り替えには、メニュー画面の “Unit” を使用します。
- 走行前に必ずキロメートル単位になっていることを確認してください。

タコメーター

タコメーターは、クランクシャフトの回転速度によって測定される毎分のエンジン回転数 (r/min) を表示します。車両の電源が ON になると、タコメーターは一旦最大値まで表示され、その後ゼロに戻ります。

要 点

タコメーターは色の調整ができるほか、ON/OFF 可能な最大回転数ホールド表示があります。

注 意

タコメーターの指針がレッドゾーンに入らないようにしてください。
レッドゾーン：11250 r/min 以上

燃料計

燃料計は、燃料タンク内の燃料の量を表示します。燃料計のセグメントが “F” (満) から “E” (空) に向け、燃料残量が減るにつれて消灯していきます。

最後のセグメントが点滅を始めたり、燃料残量警告アイコンが表示されたら、速やかに給油してください。

要 点

全てのセグメントが繰り返し点滅する場合は、ヤマハ販売店で点検を受けてください。

時計

この時計は 12 時間表示です。

情報ディスプレイ

メイン画面の一部であるこのディスプレイは、外気温や冷却水温、トリップメーター、燃費の状態などの情報を表示します。表示項目は、メニュー画面で 4 つのグループに設定できます。

情報ディスプレイの項目は、次のとおりです。

A.TEMP: 気温

C.TEMP: 冷却水温

TRIP-1: トリップメーター 1

TRIP-2: トリップメーター 2

F-TRIP: フューエルトリップメーター

ODO: オドメーター

FUEL CON: 総燃料消費量

FUEL AVG: 平均燃料消費量

各部の取り扱いと操作

CRNT FUEL: 瞬間燃料消費量

要点

- オドメーターは、999999で固定されます。
- TRIP-1とTRIP-2は9999.9までカウントを続け、その後リセットされます。
- 燃料タンクの残量が少なくなると、F-TRIPが自動的に表示され、その時点からの走行距離を表示します。
- 給油後、一定距離を走行すると、F-TRIPは自動的に消灯します。
- 燃料消費量の単位切り替え、時計の設定、キロメートルとマイルの単位の切り替えなどは、3-15ページの“Unit”を参照してください。

TRIP-1、TRIP-2、F-TRIP、FUEL CON、FUEL AVEの各項目は、個別にリセットできます。

情報ディスプレイ項目のリセットのしかた

1. ホイールスイッチを用いて、リセットしたい表示項目が現れるまでディスプレイ項目をスクロールさせます。
2. ホイールスイッチを短押しすると、選択項目が約5秒間点滅します。二つの項目がリセット可能な場合、上の項目がはじめに点滅します。下の項目を選択するには、下にスクロールします。
3. 選択した項目が点滅している間に、ホイールスイッチを1秒間押し続けるとリセットできます。

ギヤポジション表示

ギヤが何速に入っているかを表示します。このモデルは、ニュートラルと6段変速です。ニュートラル位置は、ニュートラルインジケーター“N”と、ギヤ表示“N”により表示されます。

最大回転数ホールド表示

タコメーターに短いバーが一時的に現れ、直近の最高エンジン回転数を示します。

要点

この表示は最大回転数が7000 r/min以上で瞬間的にオンになります。

QS表示

メインスイッチを“ON”にしたとき、クイックシフトシステム(3-24ページ参照)がオンになり、QS表示が点灯します。

要点

システムに異常が検知されると、この表示が消灯してシステムが使用できなくなります。ヤマハ販売店で車両の点検を受けてください。

エコ表示

この表示は、環境にやさしい低燃費な方法で車両を運転している場合に点灯します。表示は車両が停止すると消灯します。

要点

燃費を抑えるには、次のような乗り方を心がけてください。

- 加速中にエンジン回転数を高くしない。
- 一定の速度で走行する。
- 速度に適したギヤを選択する。

ドライブモード表示

“STD”、“A”または“B”のうち、選択されたドライブモードを表示します。詳しくは3-23ページを参照してください。

トラクションコントロールシステム表示

“1”、“2”または“OFF”のうち、選択されたトラクションコントロールの設定を表示します。詳しくは3-25ページを参照してください。

気温表示

この表示では、 -9°C ～ 50°C の外気温が 1°C 刻みで表示されます。

要点

- 外気温が -9°C を下回った場合にも、 -9°C と表示されます。
- 外気温が 50°C を上回った場合にも、 50°C と表示されます。
- 表示される温度は、外気温と一致していない場合があります。

各部の取り扱いと操作

グリップウォーマー表示

グリップウォーマーは、エンジン始動中のみ使用できます。グリップウォーマーの設定は4種類あります。

表示	設定
 OFF	オフ
	低
	中
	高

グリップウォーマーの設定のしかた

1. グリップウォーマー表示を選択します。
2. ホイールスイッチを短押してから、グリップウォーマー表示が点滅中にホイールスイッチを上下に回転させて設定を変更します。ホイールスイッチを短押して設定を決定します。

要 点

グリップウォーマーの設定は“Grip Warmer Setting” (3-21 ページ参照) で微調整できます。

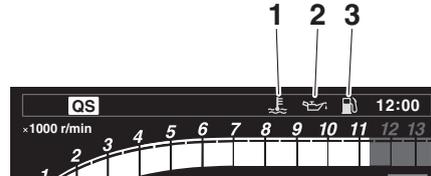
JCA17932

注意

- グリップウォーマーを使用するときは、必ずグローブを着用してください。
- 気候が暖かいときにグリップウォーマーを使用しないでください。

- ハンドルバーグリップまたはスロットルグリップが摩耗したり破損したりした場合は、グリップウォーマーの使用を止め、グリップを交換してください。

警告アイコン



1. 水温警告 “”
2. エンジンオイル警告 “”
3. 燃料残量警告 “”

水温警告 “”

エンジン冷却水温が 117°C 以上になると、このアイコンが表示されます。車両を停止させてエンジンを OFF にし、エンジンを冷やしてください。

JCA10022

注意

エンジンがオーバーヒートした場合、エンジンの使用を続けしないでください。

エンジンオイル警告 “”

エンジンオイル量が少ないときに、このアイコンが点灯します。この場合、エンジンを停止し、エンジンオイルを補給してください。メインスイッチを“ON”にしたときに、アイコンが数秒間点灯し、その後消灯します。異常を検出した場合、アイコンが点滅を繰り返します。ヤマハ販売店で車両の点検を受けてください。

JCA26400

注意

エンジンオイル量が不足した状態のまま運転しないでください。

燃料残量警告 “”

タンク内の燃料残量がおよそ 2.6 L になると、このアイコンが表示されます。異常を検出した場合、アイコンが点滅を繰り返します。ヤマハ販売店で車両の点検を受けてください。

各部の取り扱いと操作

JAU84311

メニュー画面



3

メニュー画面には、次の設定モジュールがあります。設定変更を行うモジュールを選択します。メイン画面からも設定の変更やリセット操作は行えますが、メニュー画面では全ての表示および設定に切り替えできます。

モジュール	説明
Maintenance	3種類の定期点検項目インターバルの表示およびリセットを行います。
Unit	燃料消費単位の設定を行います。
Wallpaper	背景色を設定します。
Shift Indicator	シフトインジケータランプのON/OFF切り替え、および回転数の設定を行います。
Display Setting	情報ディスプレイの表示項目の設定を行います。
Brightness	画面の明るさを調節します。

Grip Warmer Setting	この機能により、グリップウォーマーの低、中、および高い温度設定をそれぞれ10段階に設定できます。
Clock	時刻を設定します。
All Reset	全ての設定を工場出荷時の設定に戻します。

メニューへの切り替えと操作

次のホイールスイッチ操作は、メニュー画面およびモジュールにおける切り替え、選択および移動の共通操作です。

長押し - ホイールスイッチを1秒以上押すことで、メニュー画面に切り替えもしくはメニュー画面からメイン画面に戻ります。

選択 - ホイールスイッチを上下に回転させてモジュールや設定項目をハイライトさせ、ホイールスイッチを短押しして選択を確定します。

三角マーク - 設定画面によっては、上向きの三角マークがあります。三角マークを選択してホイールスイッチを短押しすると、画面を一つ前に戻すことができます。なお、三角マークを選択してホイールスイッチを長押しすると、メイン画面に戻ります。

要点

- グリップウォーマー表示が選択されているか、フューエルトリップメーター (F-TRIP) が表示されている場合を除いて、ホイールスイッチを長押しするとメニュー画面に切り替えられます。

- 車両の動きが検知されると、自動的にメニュー画面を終了し、メイン画面に戻ります。

“Maintenance”

このモジュールでは、エンジンオイル交換時 (OIL項目を使用) からの距離と、ご自身で決めた2つの項目 (INTERVAL 1とINTERVAL 2を使用) の走行距離を表示します。

メンテナンス項目のリセットのしかた

1. メニュー画面から、“Maintenance”を選択します。

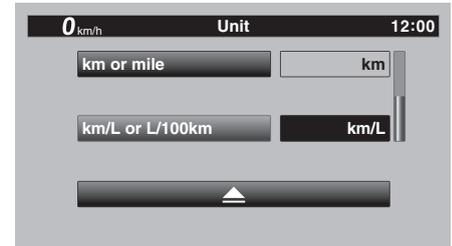


2. リセットしたい項目を選択します。

要 点

“km” を選択しているとき、燃料消費単位が“km/L”または“L/100km”に設定することができます。燃料消費単位の設定は以下の手順で設定してください。“mile”を選択している場合は、手順4に進みます。

3. 使用したい表示単位を選択します。



4. 三角マークを選択すると、設定が完了します。

“Wallpaper”

このモジュールでは、昼と夜の両方の設定でメイン画面の背景色を黒または白に設定できます。インストルメントパネルのフォトセンサーが明るさを検知し、昼と夜の設定に自動的に切り替えます。フォトセンサーは、昼夜モードのそれぞれにおいて、明るさも最適な状態に微調整します。

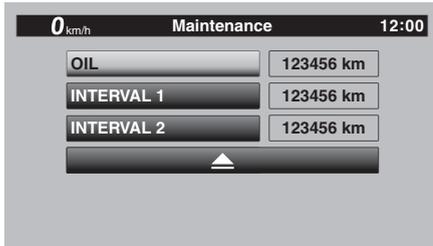
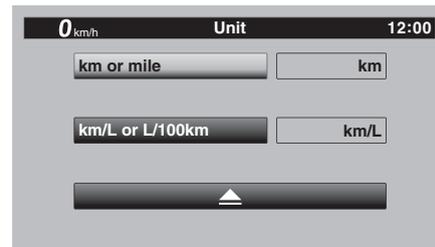
キロメートルを選択しているとき、燃料消費単位は km/L または L/100km に切り替えることができます。マイルを選択しているときは、MPG が表示されます。

距離または燃料消費単位の設定のしかた

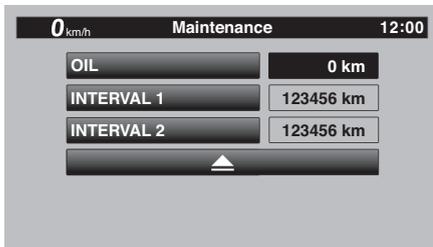
1. メニュー画面から、“Unit” を選択します。



2. 距離または燃料消費の調整したい表示項目を選択します。



3. ホイールスイッチを長押しして、選択した項目をリセットします。



要 点

メンテナンス項目の名前は変更できません。

“Unit”

このモジュールでは、キロメートルとマイルの単位を切り替えることができます。

各部の取り扱いと操作

3



1. フォトセンサー

背景色の設定のしかた

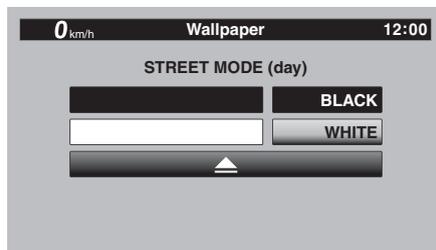
1. メニュー画面から、“Wallpaper” を選択します。



2. 調整したいモードを選択します (昼間の設定は DAY を、夜間の設定は NIGHT を選択します)。



3. 背景色を選択します (黒は BLACK を、白は WHITE を選択します)。



4. 三角マークを選択すると、設定が完了します。
5. 他の背景色を設定するには手順2から繰り返すか、三角マークを選択してこのモジュールを終了します。

“Shift indicator”

このモジュールには、次の項目があります。

モジュール	説明
Shift IND Setting	シフトインジケータランプのパターンを、“ON”、“Flash”または“OFF”から選択し、何回転 (r/min) でインジケータランプが点灯もしくは消灯するかを調節します。
Shift IND Brightness	シフトインジケータランプの明るさを調整します。
Tach IND Setting	タコメーターのカラー表示を“ON”と“OFF”から選択し、何回転 (r/min) でタコメーターが緑もしくはオレンジになるかを設定します。
Peak Rev IND Setting	タコメーターの最大回転数ホールド表示を、“ON”もしくは“OFF”から選択します。

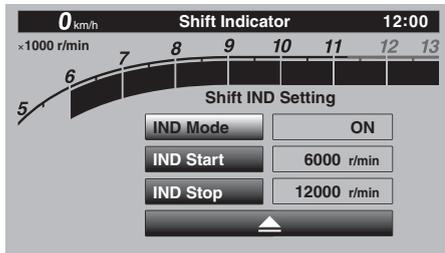


設定変更のしかた

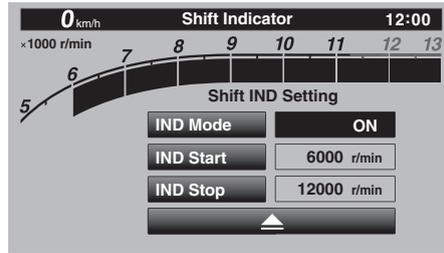
1. “Shift IND Setting” を選択します。



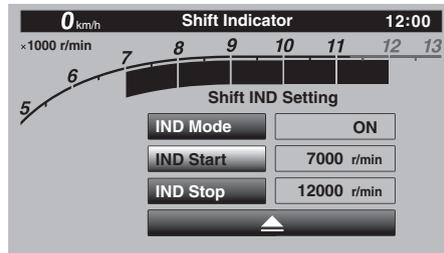
2. “IND Mode” を選択します。



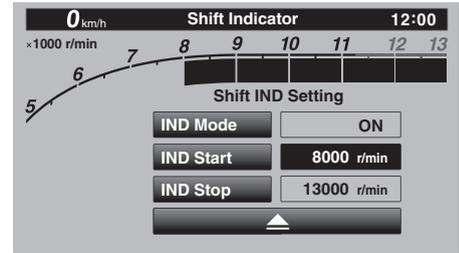
3. 設定したエンジン回転数に達したとき、インジケータを常時点灯にするには“ON”を、消灯とするには“OFF”を、点滅させるには“Flash”を選択します。



4. “IND Start” を選択します。



5. ホイールスイッチを回し、インジケータが点灯する回転数 (r/min) を設定します。“IND Start” の設定可能範囲は、5000-12800 r/min の間です。



6. “IND Stop” を選択し、ホイールスイッチを回してインジケータランプが消灯する回転数 (r/min) を設定します。“IND Stop” の設定可能範囲は、5500-13000 r/min の間です。

要点

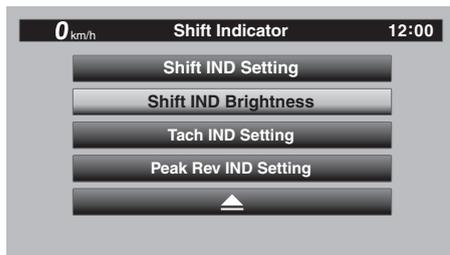
タコメータの青い部分は、現在設定されているシフトインジケータランプの動作範囲を表します。

“Shift IND Brightness”

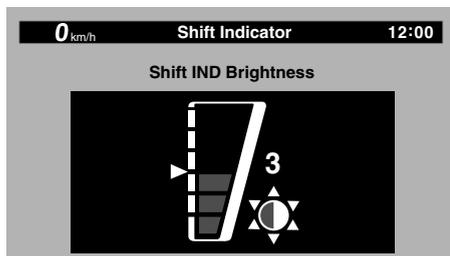
シフトインジケータランプの明るさは、6段階で調整できます。

各部の取り扱いと操作

3



“Shift IND Brightness”を選択し、ホイールスイッチを用いて設定を調整します。短押しして設定を確定し、終了します。



“Tach IND Setting”

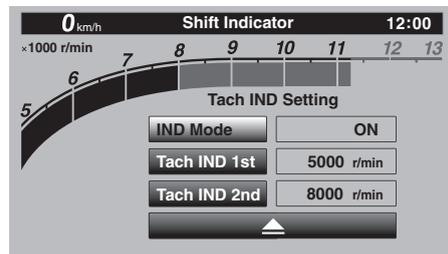
このモジュールでは、タコメーターの色表示のON・OFFが切り替えられます。OFFにすると、タコメーターはレッドゾーン以下の全ての回転数 (r/min) を白または黒で表示します (Wallpaper の設定によります)。ON にす

ると、中回転域から中高回転域にかけて、緑もしくはオレンジ色で表示させることができます。

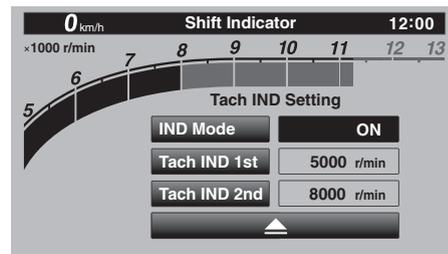
1. “Tach IND Setting” を選択します。



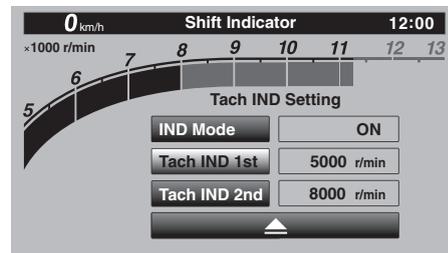
2. “IND Mode” を選択します。



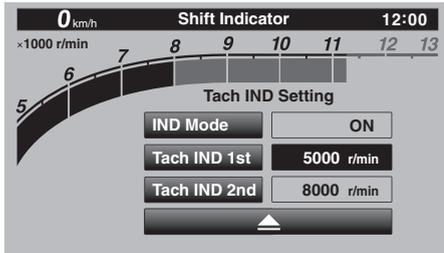
3. ON を選択しタコメーターの色表示を有効にします (もしくは OFF を選択し無効にします)。



4. “Tach IND 1st” を選択し、緑ゾーンの始点 (r/min) を設定します。



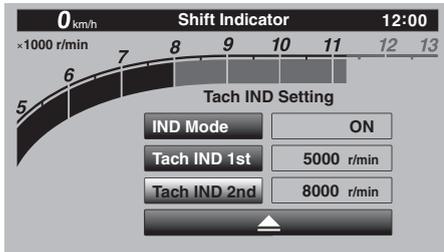
5. 始点 (r/min) をホイールスイッチを回して調整し、短押しします。設定した値 (r/min) から “Tach IND 2nd” における設定値 (もしくはレッドゾーンまで) が、自動的に緑色で表示されます。



要点

緑色表示の始点は、5000-11300 r/min の間で調整できます。

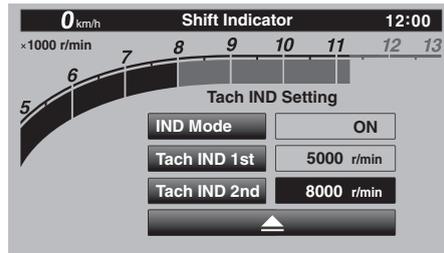
6. “Tach IND 2nd” を選択します。



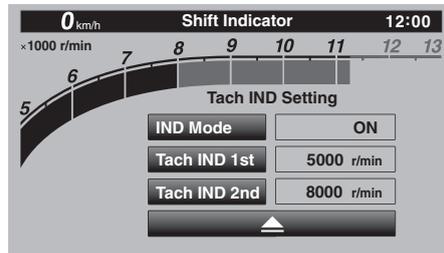
7. オレンジ色表示の始点 (r/min) をホイールスイッチを回して調整し、短押しします。設定した値 (r/min) からレッドゾーンまでが、オレンジ色で表示されます。

要点

オレンジ色表示の始点は、5000-11300 r/min の間で調整できます。



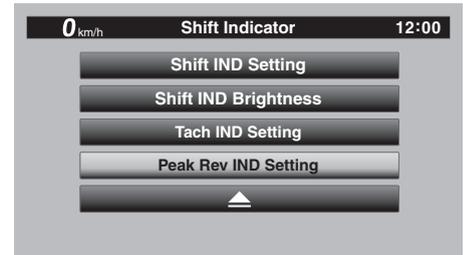
8. 三角マークを選択して、設定を完了します。



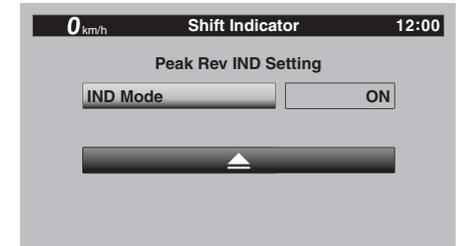
“Peak Rev IND Setting”

このモジュールでは、最大回転数ホールド表示の ON もしくは OFF を切り替えられます。

1. “Peak Rev IND Setting” を選択します。



2. “IND Mode” を選択し、ON を選択して表示を ON にするか、OFF を選択して表示を OFF にします。



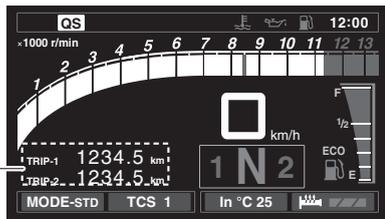
3. 三角マークを選択して、設定を完了します。

各部の取り扱いと操作

“Display Setting”

このモジュールでは、情報ディスプレイ (TRIP-1、ODO、C. TEMP など) の、メイン画面でのグループ化が行えます。グループは4つあります。

3



1

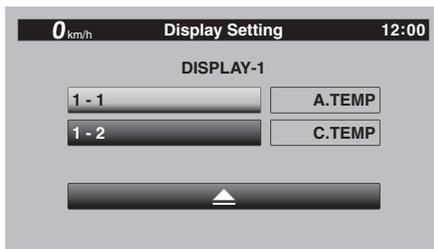
1. 情報ディスプレイ

表示グループの設定のしかた

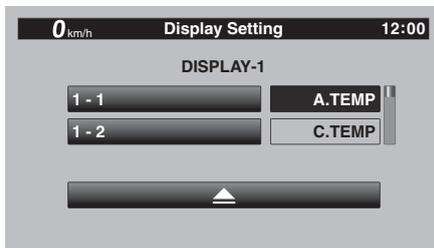
1. メニュー画面から“Display Setting”を選択します。



2. DISPLAY-1、DISPLAY-2、DISPLAY-3、DISPLAY-4 が表示されます。
3. 例えば、DISPLAY-1 を選択すると、1-1 と 1-2 が表示されます。

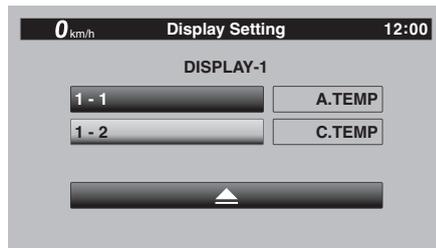


4. 1-1 を選択します。



5. ホイールスイッチで表示させたい表示項目を選択します。
 - A.TEMP: 外気温
 - C.TEMP: 冷却水温
 - TRIP-1: トリップメーター 1
 - TRIP-2: トリップメーター 2

- ODO: オドメーター
 - FUEL CON: 総燃料消費量
 - FUEL AVG: 平均燃料消費量
 - CRNT FUEL: 瞬間燃料消費量
6. 1-2 を選択し、残りの DISPLAY-1 グループの項目を設定します。



7. 三角マークを選択し、設定を完了します。他の表示グループを設定するには、手順3から繰り返します。

“Brightness”

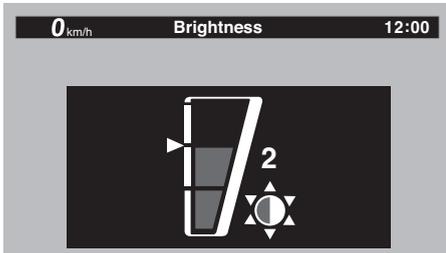
このモジュールでは、ディスプレイ画面の明るさを調整できます。

明るさの設定のしかた

1. メニュー画面から“Brightness”を選択します。



- ホイールスイッチで好みの明るさに調節し、短押しして設定を確定させます。



“Grip Warmer Setting”

このモジュールでは、グリップウォーマーの低、中、および高の温度設定をそれぞれ10段階に設定できます。

グリップウォーマーの温度設定のしかた

- メニュー画面から“Grip Warmer Setting”を選択します。



- “LO”、“MIDDLE”または“HIGH”を選択します。



- 温度を設定します。



- 他の項目の温度は、手順2から同様の手順で設定するか、三角マークを選択してこのモジュールを終了します。

“Clock”

このモジュールでは、時刻設定を行えます。

時刻設定のしかた

- メニュー画面から“Clock”を選択します。

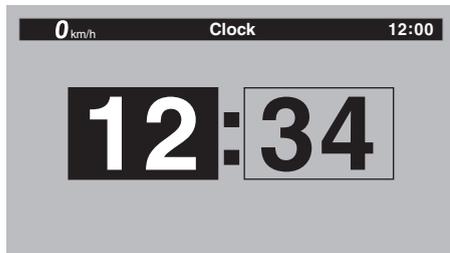


各部の取り扱いと操作

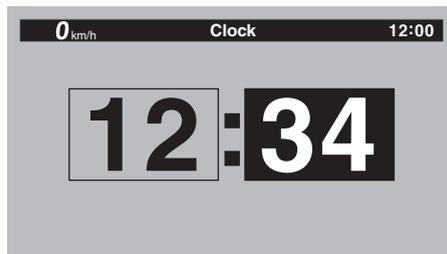
2. “Clock” が選択されると、「時」がハイライト表示されます。



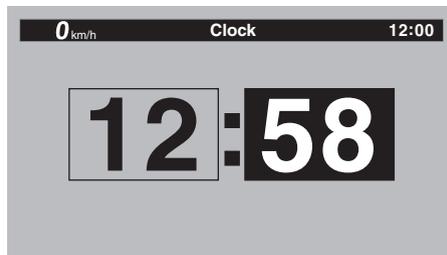
3. ホイールスイッチを回転・短押しし、「時」を設定します。



4. 「分」がハイライト表示されます。



5. ホイールスイッチを回転・短押しし、「分」を設定します。



6. ホイールスイッチを再度短押しして設定画面を終了し、メニュー画面に戻ります。

YESを選択してホイールスイッチを短押しすると、全ての項目がリセットされ、自動的にメニュー画面に戻ります。

“All Reset”

このモジュールでは、オドメーターと時計を除き、全ての項目を工場出荷時の設定に戻します。

JAU12333

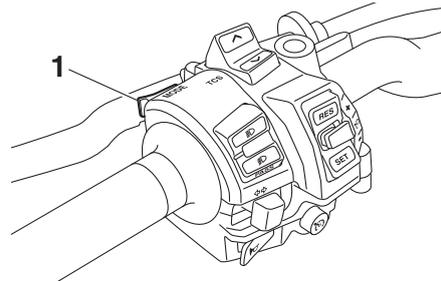
盗難警報器（別売アクセサリ）

この車には、別売アクセサリの盗難警報器を装着することができます。装着については、お買いあげのヤマハ販売店にご相談ください。

JAU84420

D-mode（ドライブモード）

D-mode は電子制御により、3 つの走行モードを選択できるシステムです。ドライブモードスイッチを押すごとに、モードが切り替わります。（3-4 ページ参照）



1. ドライブモードスイッチ“MODE”

要 点

ドライブモードスイッチをご使用になる前に、各モードの特長と操作内容を充分理解してから操作してください。

“STD” モード

“STD” モードは、さまざまな走行条件に適したモードです。スムーズでスポーティな走行フィーリングが低速から高速まで楽しめるモードです。

“A” モード

“A” モードは、“STD” モードに対して、よりスポーティなエンジンレスポンスを低中速域で楽しめるモードです。

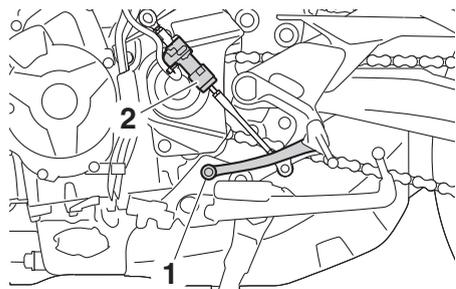
“B” モード

“B” モードは、“STD” モードに対して、より繊細なスロットル操作が必要なシーンなどで穏やかなレスポンスを発揮するモードです。

各部の取り扱いと操作

JAU84321

シフトペダル



1. シフトペダル
2. シフトスイッチ

シフトペダルは車両の左側にあります。シフトアップするには、シフトペダルを上にかし、シフトダウンするには、シフトペダルを下にかします。(5-2 ページ参照)

要 点

クイックシフトシステムがオンのとき、シフトスイッチがシフトペダルの動きを検知して自動的にクラッチの断続を行うため、クラッチレバーを操作しなくてもシフトアップが可能です。

JAU84330

クイックシフトシステム

クイックシフトシステム (QS) は電子制御によりスロットルを閉じず、クラッチレバーを操作しなくてもシフトアップを可能にするシステムです。シフトスイッチがシフトペダルの操作を検知すると (3-24 ページ参照)、エンジン出力や駆動力が一瞬で自動調整されてシフトアップが可能となります。

要 点

- クイックシフトシステムは車の速度が 20 km/h 以上でエンジン回転数が 2300 r/min 以上、かつ加速中の場合のみ作動します。
- クラッチレバーを操作した場合、クイックシフトシステムは作動しません。

JAU63040

ABS

この車の ABS (アンチロックブレーキシステム) は、フロントブレーキとリアブレーキに独立して働くデュアルエレクトロニックコントロールシステムを特徴としています。ABS は ECU (エレクトロニックコントロールユニット) によってモニターされており、ECU が故障を検知した場合には通常のブレーキの状態になります。

JWA15363

警告

- ABS は制動距離を短くする装置ではありません。
- 未舗装路や砂利道など路面の状況により、ABS のない車に比べて制動距離が長くなることがあります。速度はひかえめにし、車間距離を充分にとってください。

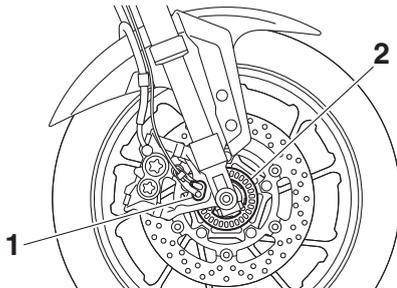
要 点

- ABS が作動していても、ブレーキは通常の方法で使用できます。ブレーキレバーまたはブレーキペダルに振動が感じられるかもしれませんが、故障ではありません。
- このABSには、ABSが作動している状態(ブレーキレバーまたはブレーキペダルに振動を感じる)を体感できるテストモードがあります。ただし、特殊工具が必要となりますので、ヤマハ販売店にご相談ください。

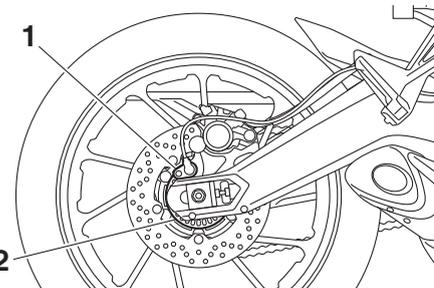
注意

ホイールセンサーやホイールセンサーローターを傷つけないでください。ABS の性能が低下するおそれがあります。

JCA20100



1. フロントホイールセンサー
2. フロントホイールセンサーローター



1. リヤホイールセンサー
2. リヤホイールセンサーローター

トラクションコントロールシステム

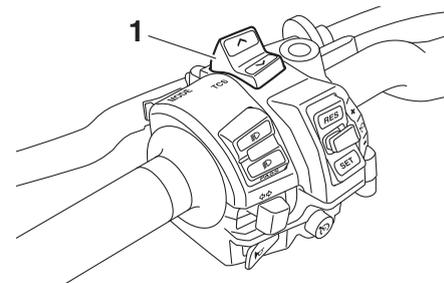
トラクションコントロールシステム (TCS) は、未舗装または濡れた道路のような滑りやすい路面で加速するとき、加速時の駆動力を効率良く路面に伝達する働きをします。

JAU84341

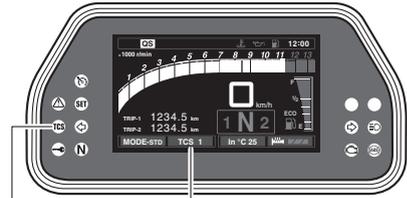
JWA15433

警告

トラクションコントロールシステムは、道路の状況に合わせた適切な走行をするための機能ではありません。またトラクションコントロールシステムは、スピードが出過ぎたまま曲がり角に進入するときや、車体を大きく傾斜させた状態での急な減速、ブレーキ中に起こるトラクションの低下やフロントホイールのスリップを防ぐことができません。他の車と同じように、滑りやすい路面に進入するときは注意して走行し、特に滑りやすい路面の走行はやめてください。



1. TCS スイッチ “ \wedge / \vee ”



1. トラクションコントロールシステム表示灯 “TCS”
2. トラクションコントロールシステム表示

トラクションコントロールが作動すると、“TCS” 表示灯が点滅します。また、エンジン音や排気音がわずかに変化することがあります。

トラクションコントロールが “OFF” にセットされると “TCS” 表示灯が点灯します。トラクションコントロールシステム表示は、現在の TCS の設定を示します。TCS の設定には、以下の 3 つがあります。

TCS “OFF”

トラクションコントロールシステムは OFF になっています。

TCS “1”

トラクションコントロールシステムの効果が最小になっています。

TCS “2”

各部の取り扱いと操作

トラクションコントロールシステムの効果が最大になっています。タイヤの空転が最も強力に制御されます。

要 点

- メインスイッチを“ON”にすると、最後に設定されていた TCS “1” または TCS “2” の設定にセットされます。
- 車両が泥や砂などの軟らかい地面にはまったとき、トラクションコントロールシステムを“OFF”にすると、抜け出しやすくなる場合があります。

JCA16801

注 意

必ず指定タイヤを使用してください。(6-7 ページ参照) 指定サイズ以外のタイヤを使用すると、トラクションコントロールシステムはタイヤの回転を正確に制御することができません。

トラクションコントロールシステムの設定

JWA15441



警告

トラクションコントロールシステムの設定を変更する前に、必ず車両を停止してください。走行中に設定を変更すると、運転に集中できなくなり、事故のリスクを増加させる可能性があります。

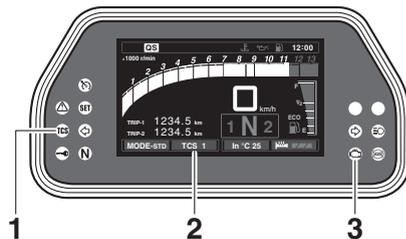
トラクションコントロールシステムは、停車してスロットルを閉じているときのみ切り替えられます。

- TCSスイッチ“ \wedge ”を押すとトラクションコントロールシステムの設定“1”、TCSスイッチ“ \vee ”を押すと“2”に切り替えられます。
- TCSスイッチ“ \wedge ”を2秒以上押すと、トラクションコントロールシステムを“OFF”にできます。
- “ \vee ”を押すと、トラクションコントロールシステムがオンになります。(前回の設定にセットされます。)

トラクションコントロールシステムの自動解除とリセット

以下のような場合、トラクションコントロールシステムは自動的に解除されます。

- 乗車中に前輪または後輪が地面から離れたとき
- 乗車中に後輪の過度な空転が検知されたとき
- 整備の際などに、メインスイッチが“ON”のまま、前後どちらかの車輪が回転したとき
トラクションコントロールシステムが解除されると、“TCS”表示灯とエンジン警告灯“ H ”の両方が点灯します。



1. トラクションコントロールシステム表示灯“TCS”
2. トラクションコントロールシステム表示
3. エンジン警告灯“ H ”

この場合、次のようにしてリセットしてください。

1. 停車して、メインスイッチを“OFF”にします。
2. 2～3秒待ってから、メインスイッチを再び“ON”にします。
3. “TCS”表示灯が消灯し、システムが有効になります。

要 点

リセット操作後も“TCS”表示灯が点灯したままの場合、乗車は可能ですが、できるだけ早くヤマハ販売店で車両の点検を受けてください。

4. ヤマハ販売店に点検とエンジン警告灯“ H ”の消灯を依頼します。

フューエルタンクキャップ

JAU13076

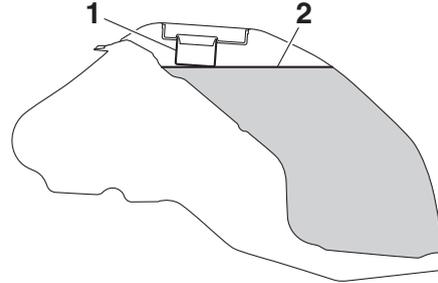
JWA12172



警告

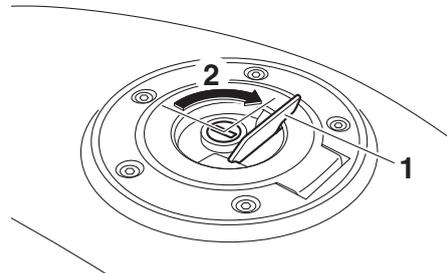
給油時およびガソリンを取り扱う場合は、次のことを必ず守ってください。

- 給油時は必ずエンジンを止め、火気を近づけないでください。ガソリンは揮発性が高く、引火しやすい燃料です。
- フューエルタンクキャップを開ける前に、車体などの金属部分に触れて静電気の除去を行ってください。身体に静電気を帯びた状態で給油すると、放電による火花で引火する場合があります、ヤケドするおそれがあります。
- 給油操作は、必ず一人で行ってください。複数で行うと静電気が除去できない場合があります。
- 給油は、必ず屋外で行ってください。
- セルフサービスのガソリンスタンドで給油するときは、ガソリンの吹きこぼれがないよう、慎重に給油してください。
- 給油限度（フィルターチューブ下端まで）を超えてガソリンを入れしないでください。走行中にガソリンがにじみ出ることがあり危険です。
- 給油後、フューエルタンクキャップを確実に閉めてください。



1. フィルターチューブ
2. 給油限度

フューエルタンクキャップの開けかた



1. ロックカバー
2. 解除

1. ロックカバーを開けます。
2. キーをロックに差し込み、時計方向に1/4回してロックを解除します。
3. フューエルタンクキャップを開けます。

フューエルタンクキャップの閉めかた

1. キーをロックに差し込んだ状態でフューエルタンクキャップを押して閉めます。
2. キーを反時計方向に回してロックし、抜き取ります。
3. ロックカバーを開めます。

要点

キーを抜き取ると、フューエルタンクキャップを開めることはできません。また、フューエルタンクキャップを正しく閉めないと、キーを抜き取ることができません。

各部の取り扱いと操作

燃料

JAU31461

指定燃料

JAU28333

指定燃料：
無鉛プレミアムガソリン
タンク容量：
約 18 L

JCA12512

注意

- 必ず指定燃料を使用してください。高濃度アルコール含有燃料や軽油、粗悪ガソリンなど、指定以外の燃料を使用するとエンジンの始動性が悪くなったり、出力低下などのエンジン不調の原因となる場合があります。また、エンジンや燃料系の部品を損傷するおそれがあります。
- こぼれたガソリンは、布切れなどできれいにふき取ってください。
- タンクにゴミやチリなどの不純物が入らないように注意してください。

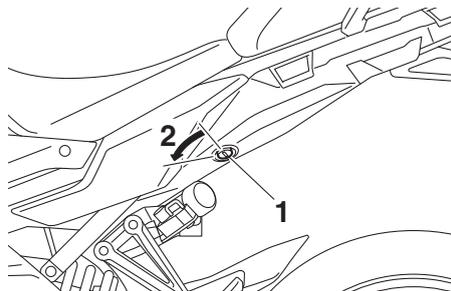
シート

JAU65800

タンデムシート

タンデムシートの取り外しかた

1. キーをシートロックに差し込み、反時計方向に回します。

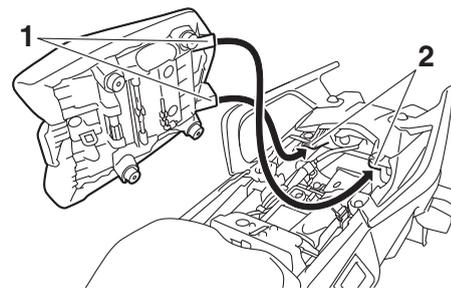


1. シートロック
2. 解除

2. タンデムシートの前部を少し持ち上げ、前方向にずらしながらタンデムシートを取り外します。

タンデムシートの取り付けかた

1. タンデムシートの後部にある突起を図のようにしてシートホルダーに差し込み、タンデムシートの前部を押し下げてタンデムシートをロックします。



1. 突起
 2. シートホルダー
2. キーを抜き取ります。

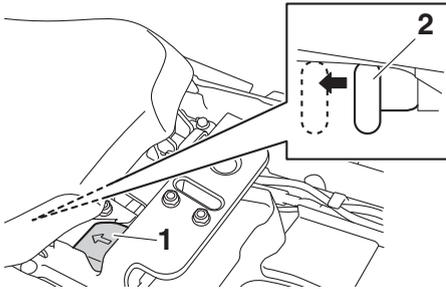
ライダーシート

ライダーシートの取り外しかた

1. タンデムシートを取り外します。
2. キャップを外し、ライダーシート後部の下にあるライダーシートロックレバーを図のように左に押し、ライダーシートを取り外します。

各部の取り扱いと操作

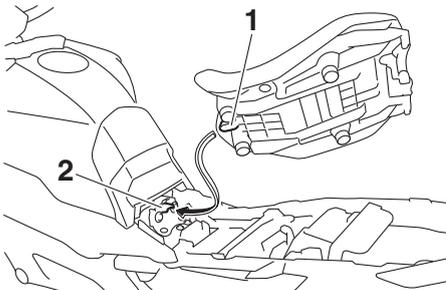
JAU63050



1. キャップ
2. ライダーシートロックレバー

ライダーシートの取り付けかた

1. キャップの矢印を車両前方に向けて差し込みます。
2. ライダーシートの前部にある突起を図のようにしてシートホルダーに差し込みます。



1. 突起
2. シートホルダー

3. ライダーシートの後部を押し下げ、ライダーシートをロックします。
4. タンデムシートを取り付けます。

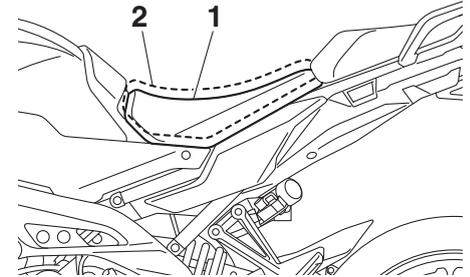
要 点

- 走行前に、必ずシートが確実にロックされていることを確認してください。
- ライダーシートの高さを調整して、乗車姿勢を変更できます。(次の項目を参照してください。)

ライダーシートの高さ調整

ライダーシートの高さは、運転者の好みに合わせて2つの位置のうちどちらかに調整することができます。

出荷時、ライダーシートは低い位置に調整されています。



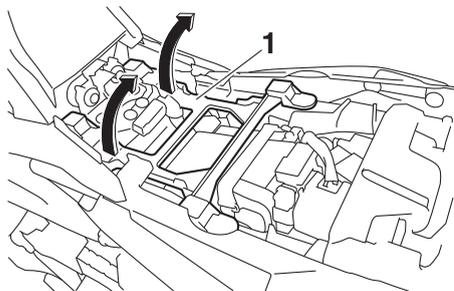
1. 低い位置
2. 高い位置

ライダーシートの高さを高い位置に変更するには

1. タンデムシートとライダーシートを取り外します。(3-28 ページ参照)
2. ライダーシートハイトアジャスターを上方向に引いて取り外します。

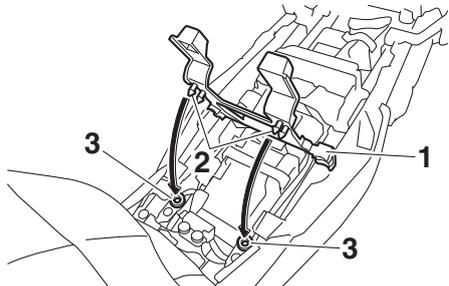
各部の取り扱いと操作

3



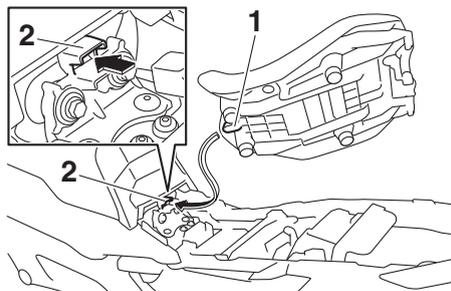
1. ライダーシートハイトアジャスター

- 図のように、ライダーシートハイトアジャスターの前部にある突起をグロメットに差し込みます。



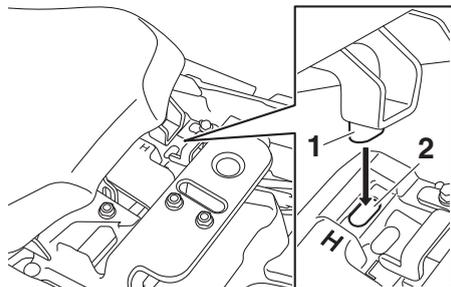
1. ライダーシートハイトアジャスター
2. 突起
3. グロメット

- 図のように、ライダーシート前方の突起をシートホルダー B に差し込みます。



1. 突起
2. シートホルダー B (高い位置用)

- 図のように、ライダーシート底部の突起を“H”位置の溝に合わせてから、ライダーシート後部を押し下げてロックします。

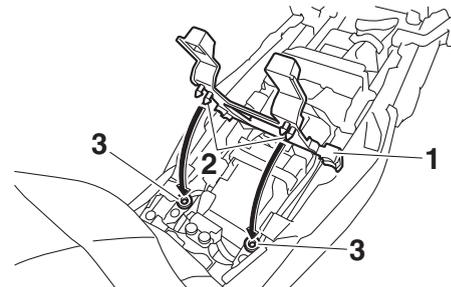


1. 突起
2. “H”位置の溝

- タンデムシートを取り付けます。

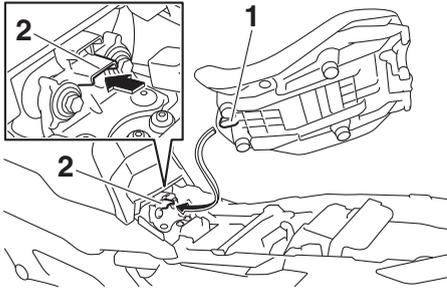
ライダーシートの高さを低い位置に変更するには

- タンデムシートとライダーシートを取り外します。(3-28 ページ参照)
- ライダーシートハイトアジャスターを上方向に引いて取り外します。
- 図のように、ライダーシートハイトアジャスターの後部にある突起をグロメットに差し込みます。



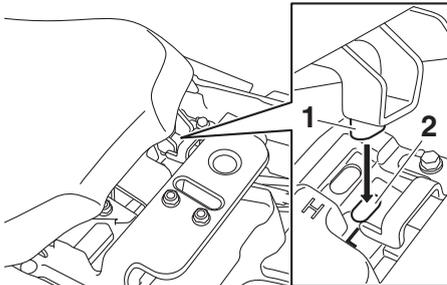
1. ライダーシートハイトアジャスター
2. 突起
3. グロメット

- 図のように、ライダーシート前方の突起をシートホルダー A に差し込みます。



1. 突起
2. シートホルダー A (低い位置用)

5. 図のように、ライダーシート裏側の突起を“L”位置の溝に合わせてから、ライダーシート後部を押し下げてロックします。



1. 突起
2. “L”位置の溝

6. タンデムシートを取り付けます。

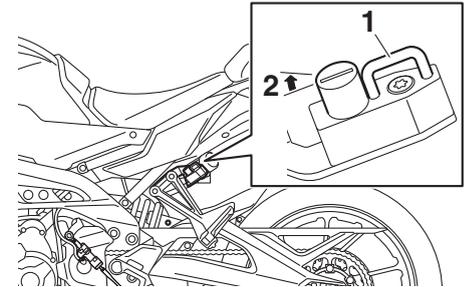
要 点

走行前に、必ずシートが正しく固定されていることを確認してください。

ヘルメットホルダー

ヘルメットは車体左側のヘルメットホルダーと、タンデムシート下にあるヘルメットホルダーの2箇所に掛けることができます。

ヘルメットの掛けかた（車体左側）



1. ヘルメットホルダー
2. 解除

キーでロックを解除し、ヘルメットのおごひもの金具部分を掛けてロックします。

ヘルメットの外しかた（車体左側）

キーでロックを解除してヘルメットを取り外し、ロックします。

要 点

ヘルメットホルダーは、常にロックしておいてください。

各部の取り扱いと操作

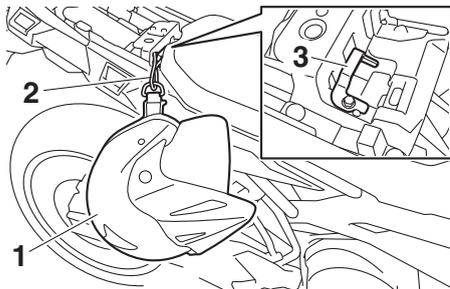
ヘルメットの掛けかた（タンデムシート下）

JWA11651

JAU62411

3

1. タンデムシートを取り外します。(3-28 ページ参照)
2. サービスツール内のヘルメットホールディングケーブルをあごひもの金具部分に通し、図のようにケーブル両端の輪をヘルメットホルダーに掛けます。



1. ヘルメット
 2. ヘルメットホールディングケーブル
 3. ヘルメットホルダー
3. ヘルメットを車体の右側に配置し、タンデムシートを取り付けます。

ヘルメットの外しかた（タンデムシート下）

タンデムシートを取り外し、ヘルメットホールディングケーブルを外した後、タンデムシートを取り付けます。



警告

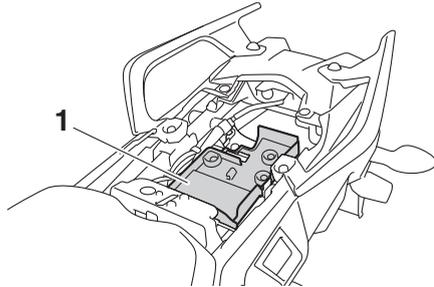
ヘルメットをヘルメットホルダーに掛けたまま走行しないでください。ヘルメットが運転を妨げ、思わぬ事故の原因になったり、車の部品に損傷を与えたり、またヘルメットにも損傷を与え保護機能を低下させます。

書類入れ

タンデムシートを外すと書類入れ（収納用ポーチ）があります。(3-28 ページ参照) 車検証、保険証、メンテナンスノートはビニール袋に入れ、書類入れに保管してください。書類入れは二つ折りにして小物入れに保管してください。

小物入れ

JAU14465



1. 小物入れ

タンデムシートの下に小物入れがあります。
(3-28 ページ参照)

JWA12431

警告

小物入れ内に積む荷物は、荷重制限 3 kg を越えないでください。

JCA12972

注意

小物入れを使用する時は以下の点に注意してください。

- 洗車をする時中に水が入ることがあります。大切な物は、ビニール袋などに入れて収納してください。
- 濡れた物は、ビニール袋に入れてから収納してください。濡れたまま収納すると、小物入れ内にカビなどが発生することがあります。

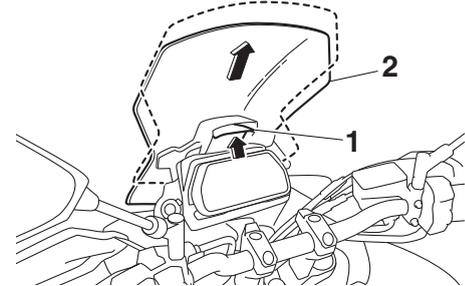
- 貴重品やこわれやすい物は入れないでください。
- 小物入れ内は直射日光などで温度が高くなります。熱の影響を受けやすい物は入れないでください。

要点

- 車から離れるときは、必ずシートをロックしてください。
- キーを小物入れ内に入れてそのままシートを閉じると、ロックされて開けられなくなります。注意してください。

ウインドシールド

この車は、調整可能なウインドシールドを装備しています。



1. ウインドシールドロックレバー
2. ウインドシールド

ウインドシールドの高さを調整するには、ウインドシールドロックレバーを上げたまま上下に動かし、好みの位置でレバーを離します。

要点

走行前に、必ずウインドシールドとロックレバーが確実にロックされていることを確認してください。

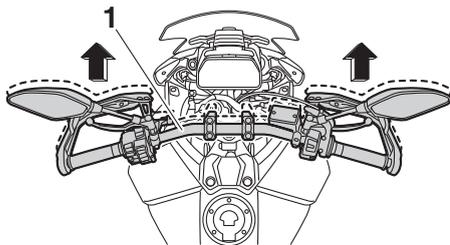
各部の取り扱いと操作

JAU46833

ハンドル位置の調整

ハンドルは、運転者の好みに合わせて2つの位置のうちいずれかに調整することができます。ハンドル位置の調整はヤマハ販売店に依頼してください。

3



1. ハンドル

JAU76342

フロントフォークの調整

JWA14671



警告
スプリングプリロードアジャスターは左右同じ位置に調整してください。左右が異なると操縦安定性に悪影響をおよぼします。

フロントフォークには、スプリングプリロードアジャスターが装備されています。また右側フロントフォークには伸側減衰力アジャスターが、左側フロントフォークには圧側減衰力アジャスターが装備されています。

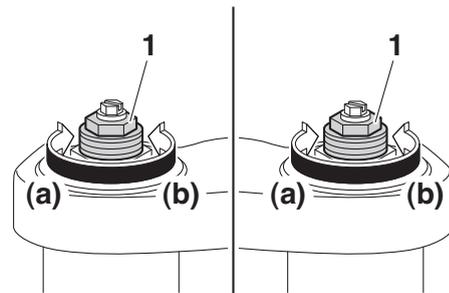
JCA10102

注意

調整範囲を超えて、アジャスターを回さないでください。

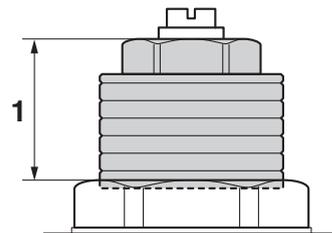
スプリングプリロード

スプリングプリロードを大きくしサスペンションを硬くするには、左右のフロントフォークのスプリングプリロードアジャスターを (a) 方向に回します。スプリングプリロードを小さくしサスペンションを軟らかくするには、左右のフロントフォークのアジャスターを (b) 方向に回します。



1. スプリングプリロードアジャスター

スプリングプリロードのセッティングは、図のセット長 A を測定して決めます。セット長 A を長くすると、スプリングプリロードは小さくなり、セット長 A を短くすると、スプリングプリロードは大きくなります。



1. セット長 A

スプリングプリロード：

- 最小（ソフト）：
セット長 A = 19.0 mm
- 標準：
セット長 A = 16.0 mm
- 最大（ハード）：
セット長 A = 4.0 mm

伸側減衰力：

- 最小（ソフト）：
(b) 方向へ 11 段
- 標準：
(b) 方向へ 7 段
- 最大（ハード）：
(b) 方向へ 1 段

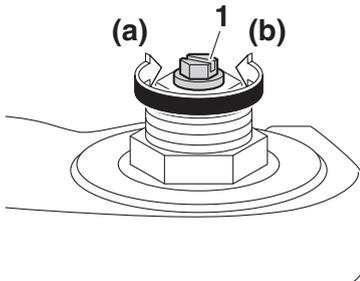
伸側減衰力

伸側減衰力は右側フロントフォークで調整します。

伸側減衰力を強めるにはアジャスターを (a) 方向に回します。伸側減衰力を弱めるにはアジャスターを (b) 方向に回します。

要 点

この調整は右側フロントフォークでしか行えません。



1. 伸側減衰力アジャスター

要 点

- 減衰力の設定は、アジャスターを (a) 方向に止まるまで回し、(b) 方向へ戻すクリック数を数えて行います。
- アジャスターは調整範囲以上にも回りませんが、減衰力に変化はありません。調整範囲内で使用してください。

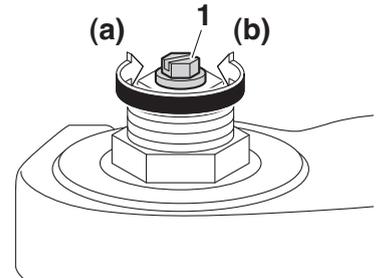
圧側減衰力

圧側減衰力は左側フロントフォークで調整します。

圧側減衰力を強めるにはアジャスターを (a) 方向に回します。圧側減衰力を弱めるにはアジャスターを (b) 方向に回します。

要 点

この調整は左側フロントフォークでしか行えません。



1. 圧側減衰力アジャスター

圧側減衰力：

- 最小（ソフト）：
(b) 方向へ 11 段
- 標準：
(b) 方向へ 7 段
- 最大（ハード）：
(b) 方向へ 1 段

要 点

- 減衰力の設定は、アジャスターを (a) 方向に止まるまで回し、(b) 方向へ戻すクリック数を数えて行います。
- アジャスターは調整範囲以上にも回りませんが、減衰力に変化はありません。調整範囲内で使用してください。
- アジャスターを (a) 方向に回すと、0 段の位置と 1 段の位置が同じになることがあります。

各部の取り扱いと操作

JAU84350

リヤクッションの調整

リヤクッションには、スプリングプリロードアジャスターと伸側減衰力アジャスターが装備されています。

JWA12441

警告

シートに人を乗せて調整をしないでください。車が動き、手などに思わぬケガをすることがあります。

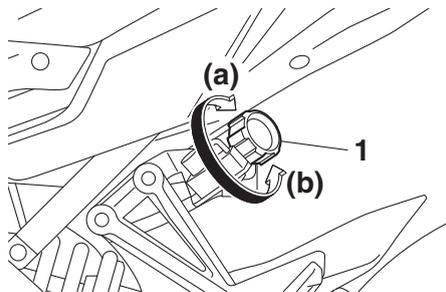
JCA11911

注意

調整範囲を超えて、アジャスターを回さないでください。

スプリングプリロード

スプリングプリロードを大きくし、サスペンションを硬くするには、スプリングプリロードアジャスターを (a) 方向に回します。スプリングプリロードを小さくし、サスペンションを軟らかくするには、アジャスターを (b) 方向に回します。



1. スプリングプリロードアジャスター

スプリングプリロード：

最小（ソフト）：

(a) 方向へ 1 段

標準：

(a) 方向へ 11 段

最大（ハード）：

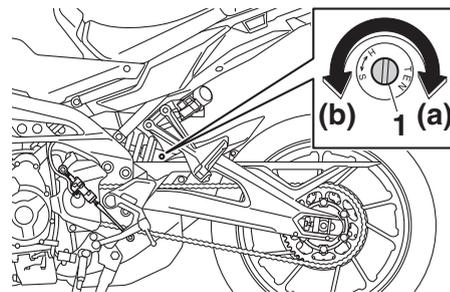
(a) 方向へ 24 段

要点

スプリングプリロードの調整は、アジャスターを (b) 方向に止まるまで回し、(a) 方向へ戻すクリック数を数えて行います。

伸側減衰力

伸側減衰力を強めるには伸側減衰力アジャスターを (a) 方向に回します。伸側減衰力を弱めるにはアジャスターを (b) 方向に回します。



1. 伸側減衰力アジャスター

伸側減衰力：

最小（ソフト）：

(b) 方向へ 18 段

標準：

(b) 方向へ 7 段

最大（ハード）：

(b) 方向へ 1 段

要点

- 減衰力の調整は、アジャスターを (a) 方向に止まるまで回し、(b) 方向へ戻すクリック数を数えて行います。
- アジャスターは調整範囲以上にも回りませんが、減衰力に変化はありません。調整範囲内で使用してください。

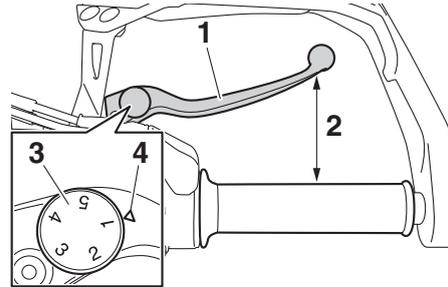
警告

リヤクッションユニットには高圧窒素ガスが封入されています。リヤクッションユニットを取り扱う場合は、必ず下記のことを厳守してください。

- シリンダー本体を加工または分解しないでください。
- リヤクッションユニットを火気の中に投げ込まないでください。高温にさらすとガスが膨張し、爆発するおそれがあります。
- シリンダーを変形させたりダメージを与えないでください。これを行うと、減衰力が低下するおそれがあります。
- 損傷または変形したリヤクッションユニットを、ご自分で処分しないでください。リヤクッションユニットの処分が必要なときは、ヤマハ販売店にご相談ください。
- 点検整備については、必ずヤマハ販売店にて実施してください。

ブレーキレバーの握り調整

手の大きさに合わせて、ブレーキレバーの握り幅が5段階に調整できます。握り幅の調整は、レバーを前側に押しながらアジャスターを回します。

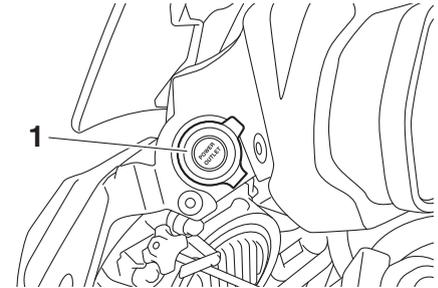


1. ブレーキレバー
2. 握り幅
3. アジャスター
4. “△”マーク

要点

アジャスターの数字と“△”マークを、必ず合わせてください。

DC ジャック



1. DC ジャックキャップ

D Cジャックに接続した12Vのアクセサリーは、エンジンを始動した状態で使用します。

JCA15432

注意

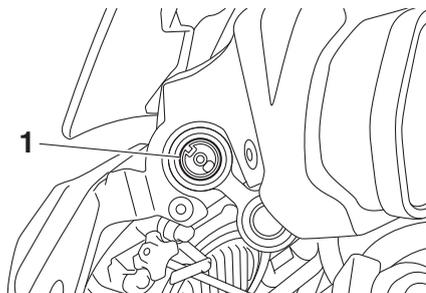
DC ジャックに接続するアクセサリーは、エンジンが停止している場合には使用しないでください。また、接続負荷が24 W (2 A) を決して超えないようにしてください。ヒューズ切れや、バッテリーあがりを起こす可能性があります。

DC ジャックの使いかた

1. メインスイッチをOFFにします。
2. DC ジャックキャップを取り外します。
3. アクセサリーをオフにします。
4. アクセサリーのプラグをDCジャックに差し込みます。

各部の取り扱いと操作

3



JAU70641

DC コネクター

この車には DC コネクターが搭載されていません。ご使用については、お買いあげのヤマハ販売店にご相談ください。

1. DC ジャック

5. メインスイッチを ON にし、エンジンを始動します。(5-1 ページ参照)
6. アクセサリーをオンにします。

JWA14361

⚠ 警告

感電または短絡を防止するため、DC ジャックを使用しない場合は、必ずキャップを取り付けてください。

JAU15306

サイドスタンド

サイドスタンドはフレームの左側にあります。車を直立にした状態で、足でサイドスタンドを上げ下げします。

要 点

この車にはサイドスタンドスイッチが装備されています。(サイドスタンドスイッチについては次の項目を参照してください。)

JWA10242

⚠ 警告

サイドスタンドを下ろした状態で、またはサイドスタンドが正しく上がらない(上がった状態にならない)場合、車を運転しないでください。サイドスタンドが地面に接し、操縦安定性を損なうことがあります。ヤマハのイグニッションサーキットカットオフシステムは、発進前にサイドスタンドの上げ忘れを防止するよう設計されています。従って、定期的にこのシステムを点検してください。正しく機能しない場合にはヤマハ販売店に修理を依頼してください。

JAU57952

イグニッションサーキットカット オフシステム

このシステムは、ギヤがニュートラル以外に入っているときのエンジン始動を制御します。サイドスタンドが上がっているがクラッチレバーが握られていないとき、もしくはクラッチレバーを握っているがサイドスタンドが下がっているときは、エンジン始動はできません。また、ギヤがニュートラル以外に入った状態でサイドスタンドを下げると、エンジンが停止します。

イグニッションサーキットカットオフシステムの作動を、以下の手順に従って適時点検してください。

要 点

- この点検は、エンジンが暖まった状態で行ってください。
- スイッチ操作については、3-2 ページ、3-3 ページを参照してください。

JWA11541



警告

点検の結果異常があった場合は、走行前にヤマハ販売店でシステムの点検を受けてください。

各部の取り扱いと操作

3

エンジンが停止した状態で：
1. サイドスタンドを下ろします。
2. エンジンストップスイッチを“○”にします。
3. メインスイッチをONにします。
4. ギヤをニュートラルに入れます。
5. スタータースイッチを押します。
エンジンは始動しましたか？

はい いいえ

ニュートラルスイッチの故障が考えられます。
すぐにヤマハ販売店にて点検を受けてください。

エンジンが始動した状態のまま：
6. サイドスタンドを上げます。
7. クラッチレバーを握ります。
8. ギヤを入れます。
9. サイドスタンドを下ろします。
エンジンは停止しましたか？

はい いいえ

サイドスタンドスイッチの故障が考えられます。
すぐにヤマハ販売店にて点検を受けてください。

エンジンが停止した後：
10. サイドスタンドを上げます。
11. クラッチレバーを握ります。
12. スタータースイッチを押します。
エンジンは始動しましたか？

はい いいえ

クラッチスイッチの故障が考えられます。
すぐにヤマハ販売店にて点検を受けてください。

イグニッションサーキットカットオフシステムは正常です。**走行可能です。**

JAU15599

JAU30142

日常点検の実施

車を安全で快適に使用いただくため、法または法に準じ、日常の車の使用状況に応じて、使用する人の判断で適時行う点検です。

JWA12032

警告

- 日常点検を怠ると重大な事故やケガ、トラブルの原因となります。必ず実施してください。
- 異常が認められたときは、乗車前にご使用のかたご自身またはヤマハ販売店で必ず整備を行ってください。

要点

点検整備に使用する工具は、必要に応じてお買い求めください。(モデルにより、サービスの有無や内容が異なります。)

日常点検箇所／点検内容

詳しい点検の方法は、6-1 ページ以降の点検整備の方法および別冊「メンテナンスノート」を参照してください。

点検箇所	点検内容
ブレーキ	<ul style="list-style-type: none"> ● ブレーキペダルの踏みしろおよびレバーの握りしろが適切で、ブレーキのききが充分であること。 ● ブレーキ液の量が適当であること。
タイヤ	<ul style="list-style-type: none"> ● タイヤの空気圧が適当であること。 ● 亀裂、損傷がないこと。 ● 異常な摩耗がないこと。 ● 溝の深さが充分あること。(※)
エンジン	<ul style="list-style-type: none"> ● 冷却水の量が適当であること。(※) ● エンジンオイルの量が適当であること。(※) ● かかり具合が良好で、かつ、異音がないこと。(※) ● 低速、加速の状態が適当であること。(※)
灯火装置および方向指示灯	<ul style="list-style-type: none"> ● 点灯または点滅具合が良好で、かつ、汚れや損傷がないこと。
運行において異常が認められた箇所	<ul style="list-style-type: none"> ● 当該箇所に異常がないこと。

(注)

※ 印の点検は車の走行距離、運行時の状態などから判断した適切な時期(長距離走行時や洗車、給油後など)に実施をしてください。

JWA11733

警告

安全のため、ご自身の知識、技量にあわせた範囲内で点検・整備を行ってください。難しいと思われる内容はヤマハ販売店にご依頼ください。点検整備するときは安全に充分注意し、下記の内容を守ってください。

- 点検は平坦で足場のしっかりした場所を選び、スタンドを立てて行ってください。
- エンジン停止直後は、エンジン本体やマフラー、エキゾーストパイプなどが熱くなっています。直接触れたりしないでください。ヤケドに注意してください。
- 排気ガスには、一酸化炭素などの有害な成分が含まれています。風通しの悪い場所や屋内でエンジンをかけると、ガス中毒を起こす危険があります。
- 走行して点検するときは、交通状況に注意してください。
- 異常が認められたときは、乗車前にご使用のかたご自身またはヤマハ販売店で必ず整備を行ってください。

要点

この車は、以下の機構を装備しています。

- メインスイッチが ON のときに車体が転倒した状態になると、エンジンを停止させます。この機構が働くと、車体を起こしてもエンジン停止の制御が継続されるため、スターターモーターは回転しても、エンジンを始動することができません。そのまま始動操作を続けると、バッテリー上がりの原因になることがありますので、このような状態になった場合はメインスイッチを一旦 OFF にして、再度 ON にするリセット操作をしてください。この機構が働いたとき、エンジン警告灯が点灯しますが、故障ではありません。また、リセット操作を行うと、エンジン警告灯が消灯します。
- 車両が停止した状態で 20 分以上エンジンがかかったままになっていると、エンジンを停止させます。この機能でエンジンが停止した場合は、スタータースイッチを押せば再始動が可能です。

エンジン始動

JWA11562

警告

- エンジンを始動するときには、3-39 ページに記述された手順で、イグニッションサーキットカットオフシステムの機能を点検してください。
- サイドスタンドを下ろした状態で走行しないでください。

1. メインスイッチを ON にし、スターター／エンジンストップスイッチが“(○)”にセットされていることを確認します。
2. ギヤをニュートラルにします。

要点

ギヤをニュートラルにしたとき、ニュートラルランプが点灯しない場合、ヤマハ販売店で電気回路の点検を受けてください。

3. スロットルを完全に閉じます。
4. スターター／エンジンストップスイッチの“(⊗)”側を押して、エンジンを始動します。

要点

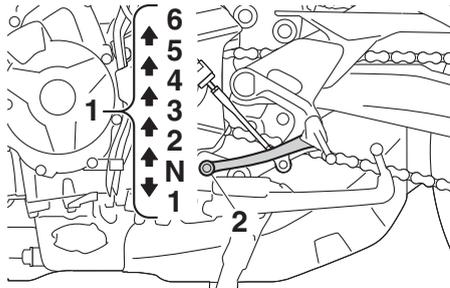
スターター／エンジンストップスイッチで 5 秒以内にエンジンが始動しないときは、バッテリー電圧を回復させるため、10 秒位休ませてからスタータースイッチを押してください。

注意

- エンジンを長持ちさせるため、エンジンが冷えている間の急加速や、無用な空ぶかしは避けてください。
- 長時間のアイドルはガソリンのムダ使いになるだけでなく、環境への悪影響にもなりますので、やめてください。
- 通常のアイドル回転数を必要以上に高くした状態（アイドルアジャスターの誤った調整や、スロットルグリップを開けて固定した状態など）で、長時間放置しないでください。温度上昇により、エンジンまたは車両が損傷する場合があります。

ギヤチェンジのしかた

JAU84370



1. ギヤの位置
2. シフトペダル

この車はリターン式の6段変速です。
ギヤチェンジは、スロットルグリップを一度戻してからクラッチレバーを握り、シフトペダルで操作します。

要 点

- ニュートラル (N) にシフトするには、繰り返しシフトダウンして1速ギヤの位置になったところで、わずかにシフトアップします。
- この車はクイックシフトシステムを装備しています。(3-24 参照)

JCA23990

注 意

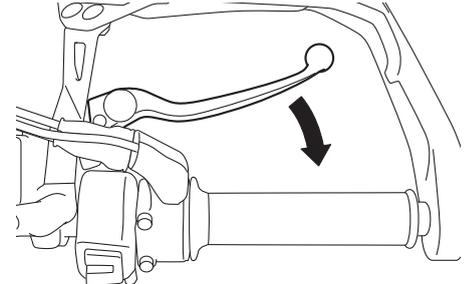
- シフトペダルは、踏みごたえがあるまで確実に操作してください。

- クイックシフトシステムでシフトアップしているときを除き、クラッチレバーを確実に握らずにギヤチェンジしたり、無理なギヤチェンジは、チェンジ機構の故障の原因になります。

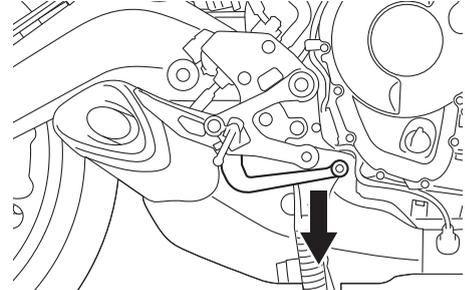
ブレーキ

1. スロットルを完全に閉じます。
2. フロントブレーキとリアブレーキを同時に、徐々にかけます。

<フロントブレーキ>



<リアブレーキ>



警告

- 急なブレーキ操作は避けてください（特にどちらか一方に傾いているとき）。横すべりや転倒の原因となります。
- 踏切、路面電車のレール、道路建設現場の鉄製のプレート、マンホールのフタなどは、濡れているときは極端に滑りやすくなります。そのようなところでは減速し、注意して走行してください。
- 濡れた路面では、ブレーキがききにくいことを留意してください。
- 下り坂でのブレーキ操作は非常に困難です。下り坂に差しかかる前までに充分減速してください。
- 連続したブレーキ操作は避けてください。ブレーキ部の温度が上昇し、ブレーキのききが悪くなるおそれがあります。

ならし運転

ならし運転のしかた

初回1か月目（または1000km走行時）の点検までは、ならし運転をしてください。ならし運転中はエンジン回転数を6800r/min以下で走行してください。また、不要な空ぶかしや急加速、急減速はしないでください。ならし運転を行うと車の寿命を延ばします。

JAU27663

駐車

駐車するときは、エンジンを止め、キーをメインスイッチから抜きます。

JWA11582

警告

- エンジンやマフラーは高温になります。通行する人などが触れない場所に駐車してください。
- 草や可燃物などの火災の危険がある場所には、決して駐車しないでください。
- 傾斜地や地面が柔らかいところには駐車しないでください。車が転倒することがあります。

点検整備の実施

JAU29839

日常点検

4-1 ページ「日常点検箇所／点検内容」の表にしたがって、適時実施してください。点検の方法については、本書の以降のページや、別冊「メンテナンスノート」の点検整備のしかた以降のページを参照してください。

定期点検整備

定期点検整備は車を使用する人が自己管理責任で定期的に行う点検整備で、法または法に準じて行うことが義務づけられています。二輪自動車または原動機付自転車については、1年点検と2年点検の2種類があります。定期点検項目と基本的な点検内容は別冊の「メンテナンスノート」に記載してあります。ここでは、この車独自の内容を補足説明しています。実際の点検作業にあたっては、別冊「メンテナンスノート」とあわせてご使用ください。

JWA12055

警告

- 点検整備を怠ると重大な事故、ケガ、トラブルの原因となります。必ず実施してください。
- 安全のため、ご自身の知識、技量にあわせて範囲内で点検・整備を行ってください。難しいと思われる内容はヤマハ販売店にご依頼ください。

- 点検するときは安全に充分注意し、以下の内容を守ってください。
 - 点検は平坦で足場のしっかりした場所を選び、スタンドを立てて行ってください。
 - エンジン停止直後の点検は、エンジン本体やマフラー、エキゾーストパイプなどが熱くなっています。ヤケドに注意してください。
 - 排気ガスには、一酸化炭素などの有害な成分が含まれています。風通しの悪い場所や屋内でエンジンをかけると、ガス中毒を起こす危険があります。エンジンの始動は風通しのよい屋外で行ってください。
 - 走行して点検するときは、周囲の交通事情に充分注意してください。
 - 異常が認められたときは、乗車前にご使用のかたご自身またはヤマハ販売店で必ず整備を行ってください。

JWA15461

警告

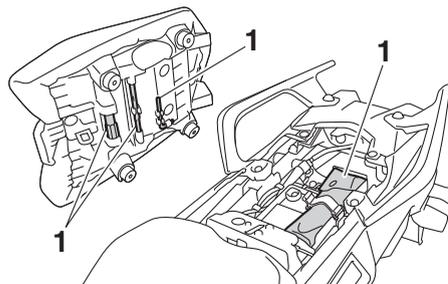
走行直後はブレーキ関係の部品に直接触れないでください。ブレーキディスク、キャリパー、ドラム、ライニングなどは使用すると高温になり、ヤケドするおそれがあります。点検整備はブレーキ関係の部品が充分に冷えてから行ってください。

要 点

- 点検整備に使用する工具は、必要に応じてお買い求めください。(モデルにより、サービスツールの有無や内容が異なります。)
- 点検結果は、別冊「メンテナンスノート」の定期点検整備記録簿に記入してください。ご自身でできない項目については、ヤマハ販売店で点検を受け、記録してください。
- 点検の記録は廃車されるまで保存してください。
- メーカー指定項目の点検結果は、定期点検整備記録簿の「その他」の欄に記録してください。

サービストール

JAU59911



1. サerviストール

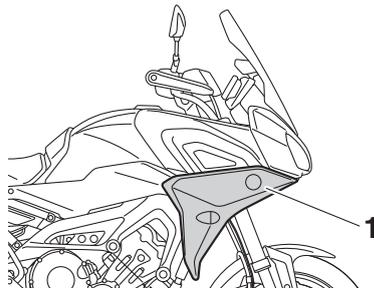
6

サービストールはタンデムシートの下側にあります。
なお、一部のツールはタンデムシート裏側のホルダーにセットしてあります。(3-28 ページ参照)

カバーの取り外し、取り付け

JAU18752

図のカバーは、点検整備などで取り外す必要があります。カバーを取り外すときや、取り付けるときは、この項目を参照してください。

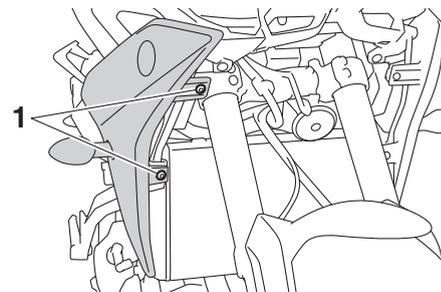


1. カバー A

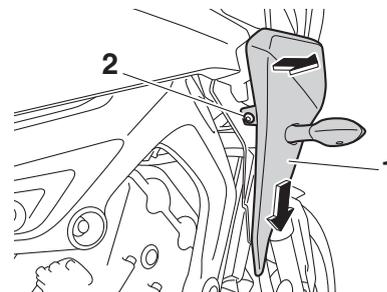
カバー A

カバーの取り外しかた

1. クイックファスナースクリューを外し、図のようにカバーを引きだしてから下にスライドさせ、カバーを取り外します。



1. クイックファスナースクリュー



1. カバー A
2. クイックファスナースクリュー

2. カブラーを取り外します。

JAU63101

JAU30456

エンジンオイル

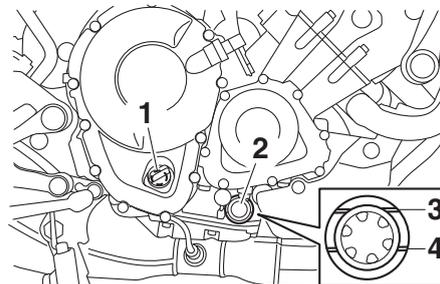
エンジンオイル量の点検

1. 平坦な場所でエンジンを2～3分間アイドリング運転します。

要点

走行直後でエンジンが十分に暖まっていれば、アイドリング運転は不要です。

2. エンジンを止めてメインスタンドを立て（車を垂直にする）、2～3分後、オイル点検窓からエンジンオイル量を点検します。

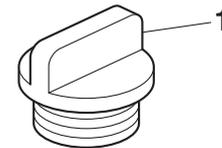


1. オイル注入口
2. エンジンオイル点検窓
3. フルレベル
4. ロアレベル

3. オイル量がロアレベル以下のときは、オイル注入口から補給します。（推奨エンジンオイルについては、7-3 ページ参照）

要点

Oリングに損傷がないか点検し、損傷がある場合は交換してください。



1. オイル注入口キャップ
2. Oリング

エンジンオイルの交換時期

JAU47504

初回：

1 か月点検時または 1000 km 時

2 回目以降：

10000 km 走行ごと、または 1 年ごと

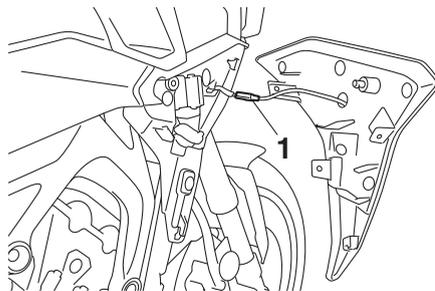
エンジンオイル量：

オイル交換時：

2.40 L

オイルフィルター取り外し時：

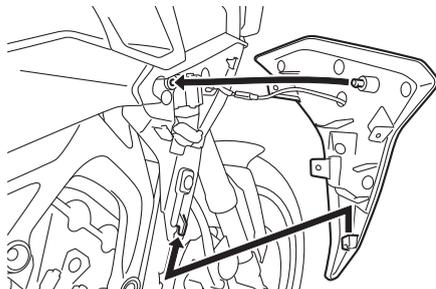
2.70 L



1. カブラー

カバーの取り付けかた

1. カブラーを取り付けます。
2. カバーを元の位置に取り付け、クイックファスナースクリューを取り付けます。



点検整備

定期交換時期の前でも、エンジンオイルの汚れが著しいときやエンジンオイルが薄茶色に濁っているときは、早めにエンジンオイルを交換してください。汚れや濁りの程度については、ヤマハ販売店にご相談ください。

オイルフィルターカートリッジの交換時期

初回：

1 か月点検時または 1000 km 時

2 回目以降：

30000 km 走行ごと

JWA11861

警告

- 走行後など、しばらくの間はマフラーやエンジンなどが熱くなっています。ヤケドに注意してください。
- 油脂類の廃液は、法令（公害防止条例）で適切な処理を行うことが義務づけられています。ヤマハ販売店にご相談ください。

JCA12102

注意

- 化学添加剤は一切加えないでください。またヤマハ純正オイルやマルーブ FX をこの車に使用しないでください。エンジンオイルはクラッチも潤滑しています。添加剤によりクラッチがすべる原因になります。
- 補給時に、オイル注入口からゴミなどが入らないように注意してください。

- オイルをこぼしたときは、布などでよくふきとってください。

JAU30691

エンジンのかかり具合、異音の点検

エンジンがすみやかに始動し、スムーズに回転するかを点検します。

エンジンから異音がないかを点検します。

低速、加速の状態の点検

JAU44194

低速、加速の状態の点検前に以下の点検を行ってください。

- エンジンを停止した状態でスロットルグリップをゆっくり回し、引っ掛かりがなくスムーズに作動することと、手を離れたときにスロットルグリップがスムーズに戻ることを点検してください。また、ハンドルを左右にいっぱいに切った状態でも同じ点検を行ってください。
- スロットルケーブルに劣化や損傷がないか点検してください。また、取り付けの状態も点検してください。
- スロットルケーブルには、ゴムカバーが取り付けられているものがあります。ゴムカバーが確実に取り付けられていることを確認し、洗車時にはゴムカバーに直接水をかけないようにしてください。ゴムカバーの汚れがひどい場合には、水で濡らして固くしぼった布などでふき取ってください。

JWA15531

警告

ケーブル、ワイヤー類に異常があるときは、早めにヤマハ販売店にご相談ください。異常がある状態で使用を続けると、重大な事故やケガ、トラブルの原因となります。

アイドリングがスムーズに続くかを点検します。

スロットルグリップを徐々に回してエンジンを加速したとき、スロットルグリップもエンジンもスムーズに回るかを走行などして

点検します。このとき、エンジンストール（エンスト）やノッキングなどが起きたら、ヤマハ販売店で点検・整備を受けてください。

冷却水

JAU20071

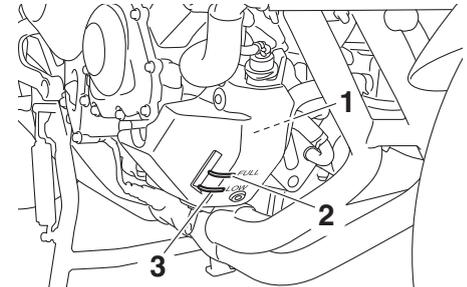
冷却水量の点検

JAU30723

要 点

冷却水量の点検は、エンジンが冷えた状態で、車を平坦なところで垂直にして行ってください。

リカバリータンク内の冷却水量が、フルレベルとロアレベルの範囲内にあるかを点検します。



1. リカバリータンク
2. フルレベル
3. ロアレベル

冷却水がロアレベル以下のときは、以下を参照して補充してください。

点検整備

冷却水のつくりかた

ヤマラップロングライフクーラントと水道水を1対1で混ぜ合わせます。

JAU30805



6

警告

クーラントには毒性がありますので、取り扱いには充分注意してください。

- 目に入ったとき
水で十分に洗い流してから、医師の治療を受けてください。
- 皮膚や衣類についたとき
すみやかに水洗いした後、セッケン水で洗ってください。
- 飲んだとき
すぐにおう吐させ、医師の治療を受けてください。

JWA11882

JCA12112

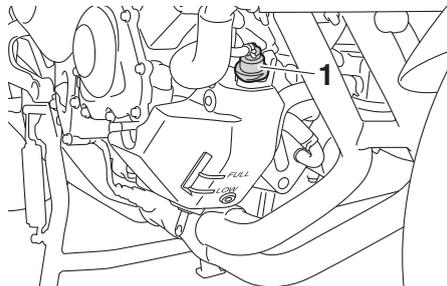
注意

混ぜ合わせに使用する水は水道水を使用し、井戸水や塩分の含まれた天然水は使用しないでください。

JAU30812

冷却水の補充

リカバリータンク内の冷却水量を点検し、ロアレベルより水面が下がっているときは、リカバリータンクキャップを開けて冷却水をフルレベルまで補充します。



1. リカバリータンクキャップ

JCA12121

注意

- フルレベル以上は入れないでください。
- 冷却水の交換は、ヤマハ販売店で行ってください。

JAU36765

エアクリーナーエレメントの交換

エアクリーナーエレメントは、定期的な交換が必要です。

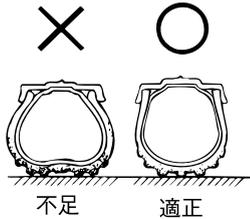
エアクリーナーエレメントの交換は、ヤマハ販売店へ依頼してください。

ほこりの多い場所や湿気が多い場所を走行する機会が多い場合は、より短い期間で交換する必要があります。ヤマハ販売店にご相談ください。

タイヤ

空気圧

JAU65360



タイヤ空気圧 (冷間時) :

1名乗車 :

前輪 :
225 kPa (2.25 kgf/cm²)

後輪 :
250 kPa (2.50 kgf/cm²)

2名乗車 :

前輪 :
250 kPa (2.50 kgf/cm²)

後輪 :
290 kPa (2.90 kgf/cm²)

要 点

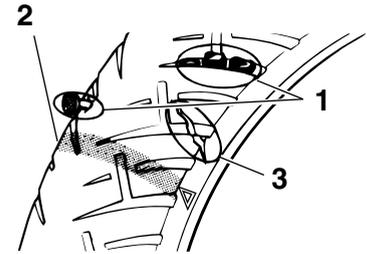
- タイヤの空気圧は徐々に低下します。見た目には不足していることが判りにくいタイヤもあり、少なくとも1か月に一度はタイヤゲージを使用して空気圧の点検を行ってください。
- 空気圧の確認は、タイヤが冷えているときに行ってください。走行後はタイヤが暖まっており、空気圧が高くなります。

JAU28642

タイヤの亀裂、損傷の点検

タイヤの接地面や側面に著しい亀裂や損傷がないかを点検します。

この車はチューブレスタイヤを装着しています。タイヤの接地面や側面に釘、石、その他の異物が刺さったり、かみ込んだりしていないかを点検し、異常があったときはヤマハ販売店で点検・整備を受けてください。



1. 異物 (釘、石など)
2. ウェアインジケータ (摩耗限度表示)
3. 亀裂、損傷

要 点

道路の縁石などにタイヤ側面を接触させたり、大きなくぼみや突起物を乗り越えたときは、必ず点検してください。

JAU28701

タイヤの異常な摩耗

タイヤの接地面が異常に摩耗していないかを点検します。

JAU28775

タイヤの溝の深さ

タイヤの溝の深さをウェアインジケータで点検します。ウェアインジケータがあらわれたら、タイヤを交換してください。

点検整備

要点

- ウェアインジケーターはタイヤの溝が0.8mmになるとあらわれます。
- 安定したコーナリングや操縦性を確保して安全な走行を行うため、タイヤの溝には充分注意してください。一般的に二輪車のタイヤは溝の深さが前輪1.6mm、後輪2.0mm 以下になりましたら交換をおすすめします。

JWA11914

警告

- タイヤを交換するときは、必ず指定タイヤを使用し、前後とも同じ銘柄のものを使用してください。指定タイヤ以外のタイヤや前後で異なった銘柄のタイヤを使用すると、操縦安定性に影響をおよぼすおそれがありますので使用しないでください。
- 過度にすり減ったタイヤの使用や不適正な空気圧での運転は、転倒事故などを起こす原因となることがあります。取扱説明書に記載された空気圧を守り、過度にすり減ったタイヤは交換してください。
- タイヤに異常があると、操縦安定性に影響をおよぼしたりパンクの原因になります。異常があるときは、ヤマハ販売店で点検・整備を受けてください。

タイヤサイズ：

前輪：
120/70ZR17 M/C (58W)

後輪：
180/55ZR17 M/C (73W)

指定タイヤ：

前輪：
DUNLOP/D222F

後輪：
DUNLOP/D222

クラッチ

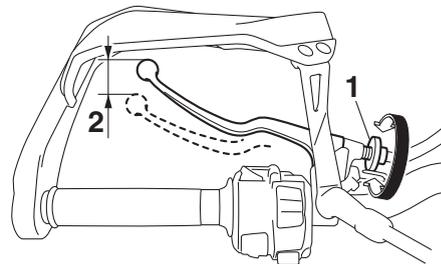
JAU45563

クラッチレバーの遊び

クラッチレバーを手で抵抗を感じるまで引き、レバー先端部の遊びの量が規定の範囲にあるかをスケールなどで点検します。

クラッチレバーの遊び

5.0-10.0 mm



1. アジャスター
2. 遊び

点検の結果調整が必要な場合は、アジャスターで調整します。

JWA11841

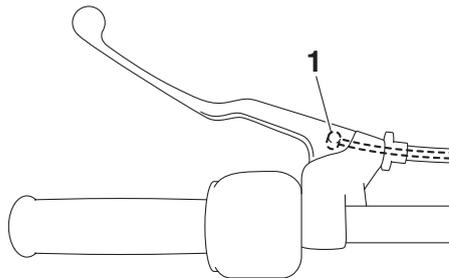
警告

調整後、エンジンをかけてギヤチェンジがスムーズにできるか、エンストなどしないかを確認してください。なお、車の飛び出しに注意してください。

注意

JCA16283

1 か月に一度はクラッチケーブルの取り付け部に注油をしてください。



1. ケーブル取り付け部

ブレーキレバーの遊び／ブレーキペダルの遊び、およびブレーキのきき具合の点検

JAU31122

ブレーキの遊びの点検

ブレーキレバーおよびブレーキペダルの遊びはありません。ブレーキを手で作動させ、手ごたえがあるかどうかを確認します。

JWA11741

警告

ブレーキレバーの引き具合、ブレーキペダルの踏み具合がやわらかく感じられるときは、エアが混入しているおそれがあります。ヤマハ販売店で点検・整備を受けてください。

ブレーキのきき具合の点検

乾いた路面を走行し、フロントブレーキ、リヤブレーキを別々に作動させたときのきき具合を点検します。

ブレーキのきき具合が悪いときは、ヤマハ販売店で点検・整備を受けてください。

JWA11761

警告

走行して点検するときは、交通状況に注意し、低速で走行しながら行ってください。

ブレーキランプスイッチの点検

JAU36505

ブレーキがきき始める直前にブレーキランプが点灯するか点検します。ブレーキランプはABSの構成部品ですので、異常があるときはヤマハ販売店で点検・整備を受けてください。

点検整備

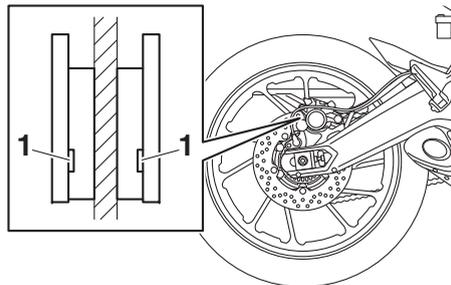
JAU49291

ブレーキパッドの点検

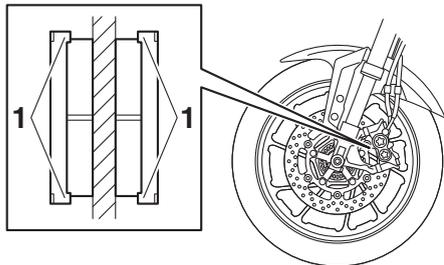
ブレーキパッドの損傷や摩耗の状態を点検します。摩耗したブレーキパッドは、ヤマハ販売店で交換してください。

<フロントブレーキ>

ブレーキパッドのインジケーターとブレーキディスクのすき間がなくなったら、ヤマハ販売店でブレーキパッドをセットで交換してください。



1. インジケーター溝



1. インジケーター

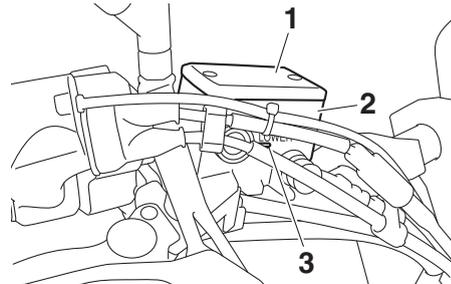
<リアブレーキ>

ブレーキパッドのインジケーター溝まで摩耗したら、ヤマハ販売店でブレーキパッドをセットで交換してください。

JAU44233

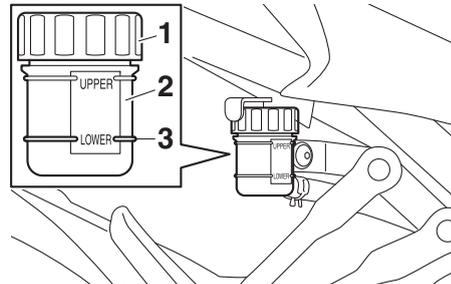
ブレーキ液量の点検

<フロントブレーキ>



1. ブレーキリザーバータンクキャップ
2. リザーバータンク
3. ロアレベル

<リアブレーキ>



1. ブレーキリザーバータンクキャップ
2. リザーバータンク
3. ロアレベル

ブレーキリザーバータンクキャップ上面を水平にして、リザーバータンク内の液量がロアレベル以上にあるかを点検します。液量がロアレベル以下のときは、販売店へブレーキ液の補給を依頼してください。

JWA12152

警告

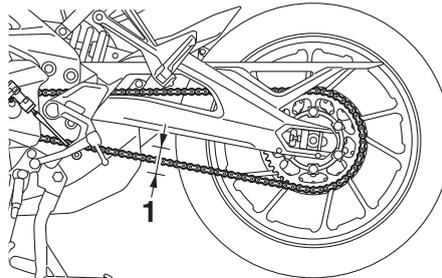
- ブレーキ液の減りが著しいときは、ブレーキシステムの液漏れが考えられます。販売店で点検・整備を受けてください。
- ブレーキ液は安全のために2年ごとに交換してください。

ドライブチェーン

JAU22762

ドライブチェーンの点検

JAU73550



1. ドライブチェーンのたわみ量

ギヤをニュートラルにしてメインスタンドを立てます。前後スプロケット間のチェーン中央部を手で上下に動かし、たわみ量が規定の範囲にあるかをスケールなどで点検します。

要点

ドライブチェーンのたわみ量を点検するときは、車体に荷重を掛けないで行います。

ドライブチェーンたわみ量：
35.0-45.0 mm

ドライブチェーンのたわみ量が規定の範囲にない場合は、たわみ量を調整します。

注意

JCA17791

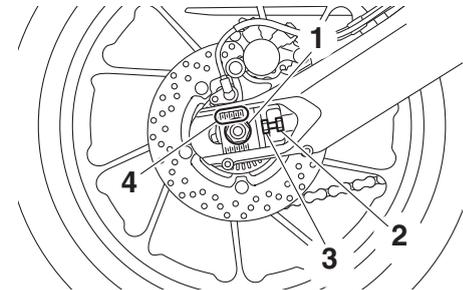
ドライブチェーンのたわみ量が 50.0 mm 以上の場合、走行しないでください。ドライブチェーンがリアアームなどの部品に接触して損傷を与えることがあります。

ドライブチェーンたわみ量の調整は、ヤマハ販売店にご相談ください。また、車体を前後にゆっくり動かしてチェーンが滑らかに回転するか、給油は充分かを点検します。

JAU57971

ドライブチェーンたわみ量の調整

1. セルフロックングナットをゆるめます。



1. セルフロックングナット
2. ロックナット
3. アジャスター
4. 刻み目盛り

点検整備

2. ロックナットをゆるめて、チェーンのたわみ量が規定値になるようにアジャスターで調整します。

要点

刻み目盛りを左右同じ位置にします。

3. 調整後、セルフロックングナットを規定のトルクで締め付けます。

締め付けトルク：

セルフロックングナット：
150 N・m (15 kgf・m)

4. ロックナットを規定のトルクで締め付けます。

締め付けトルク：

ロックナット：
16 N・m (1.6 kgf・m)

5. 左右の刻み目盛りが同じ位置にあるか、ドライブチェーンたわみ量が規定の範囲にあるか、チェーンが滑らかに回転するか確認します。

JAU23026

ドライブチェーンの給油

1. リヤホイールを浮かし、ホイールを手でゆっくり回しながら、チェーンやスプロケットに付着した泥や汚れを柔らかいブラシなどで落とします。その後、ヤマーループ スーパーチェーンクリーナーで洗浄します。
2. チェーンを乾燥させた後、リヤホイールを手でゆっくり回しながら、チェーンにヤマーループ 180 チェーンオイルを給油します。

JCA12471

注意

この車はシールチェーンを採用しています。取り扱いには以下の点に注意してください。

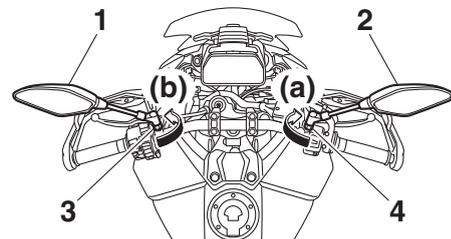
- スチーム洗浄はしないでください。
- シナー、ガソリンなどの揮発性溶剤やワイヤーブラシを使用して洗浄しないでください。

JAU43562

バックミラー

バックミラーの脱着のしかた

- 右バックミラーは左ネジです。右バックミラーを取り外すときは、右バックミラー取り付けナットを時計回り (a) 方向に回してゆるめ、ミラーを同方向に回して取り外します。
- 左バックミラーは右ネジです。左バックミラーを取り外すときは、左バックミラー取り付けナットを反時計回り (b) 方向に回してゆるめ、ミラーを同方向に回して取り外します。



1. 左バックミラー
2. 右バックミラー
3. 左バックミラー取り付けナット
4. 右バックミラー取り付けナット

- バックミラーの取り付けは、取り外しと逆の手順で行います。

JAU28621

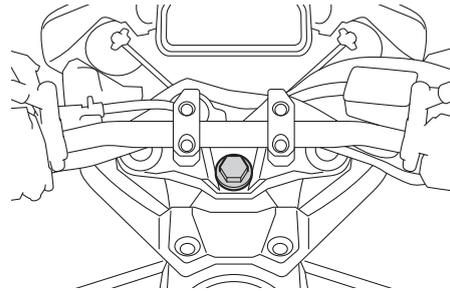
車体各部の給油脂状態の点検

車体各部の給油脂状態が充分であるかを点検します。
異常があるときは、ヤマハ販売店で点検・整備を受けてください。

JAU28651

アンダーブラケットの取り付け状態の点検（ステアリングシステム）

アンダーブラケットの締付ボルトまたは締付ナットに、ゆるみがないかを工具で点検します。



締付ボルトまたは締付ナットにゆるみがあるときは、ヤマハ販売店で規定トルクでの締め付けを依頼してください。

JAU28762

バッテリー

バッテリーの点検

この車のバッテリーは密閉式です。
バッテリー液の補充、点検は不要です。
バッテリーに異常があるときは、ヤマハ販売店で点検・整備を受けてください。
バッテリーターミナル部に汚れや腐食があるときは、バッテリーを取り外して清掃します。

JWA11811

警告

バッテリーは引火性ガス（水素ガス）を発生しますので、取り扱いを誤ると爆発し、ケガをすることがあります。次の点を必ず守ってください。

- 火気厳禁です。ショートやスパークさせたり、タバコなどの火気を近づけないでください。爆発のおそれがあります。
- 補充電は風通しのよいところで行ってください。
- ガソリン、油、有機溶剤などを付着させないでください。電そう割れの原因となることがあります。
- 落下などの強い衝撃を加えないでください。
- バッテリー液は希硫酸です。皮膚、目、衣服などに付着すると、重大な傷害を受けることがあります。
- 子供の手の届くところに置かないでください。

点検整備

応急手当

- 万一、バッテリー液が皮膚、衣服などに付いたときはすぐに多量の水で洗い流してください。
- 目に入ったときは、すぐに多量の水で洗い流し、医師の治療を受けてください。

JCA12142

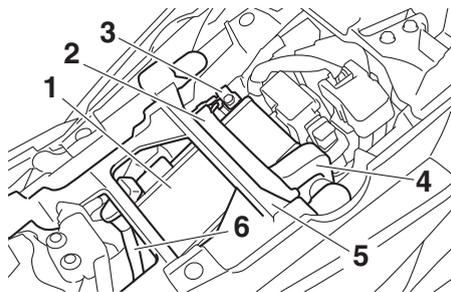
注意

- このバッテリーは密閉式の 12V です。
- このバッテリーは液入り充電済です。液量点検および補水は必要ありません。
- 補充電には、密閉式バッテリー専用充電器を使用してください。くわしくはヤマハ販売店にご相談ください。
- 長期間ご使用にならないときは、3 か月ごとに補充電してください。
- バッテリーを交換するときは、必ず同型式のバッテリーを使用してください。

JAU67461

バッテリーの取り外し

1. ライダーシートとライダーシートハイトアジャスターを取り外します。(3-28、3-29 ページ参照)
2. バッテリーバンドを外します。
3. - (マイナス) 側リード線を外し、次に + (プラス) 側リード線を外します。
4. スペーサーを外し、バッテリーを取り外します。



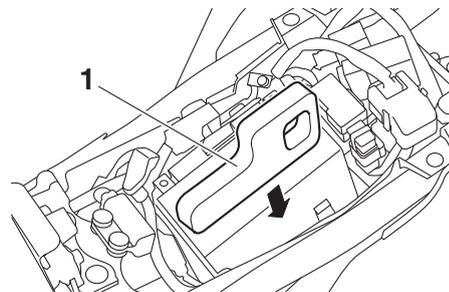
1. バッテリー
2. バッテリーバンド
3. -リード線
4. スペーサー
5. ライダーシートハイトアジャスター
6. +リード線

バッテリーの取り付け

取り付けは、取り外しと逆の手順で行います。

要点

スペーサーは図の向きで取り付けてください。

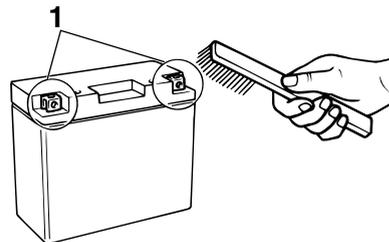


1. スペーサー

JAU29411

ターミナル部の清掃

バッテリーターミナル部に汚れや腐食があるときは、やわらかいブラシなどで清掃します。また、白い粉がついているときは、ぬるま湯を注いでよくふき取ります。



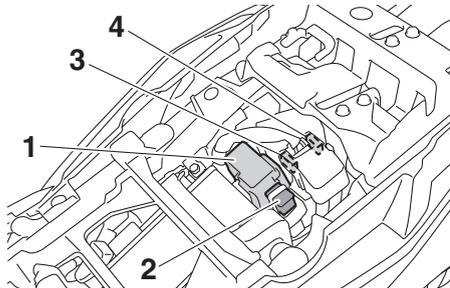
1. ターミナル

JAU63134

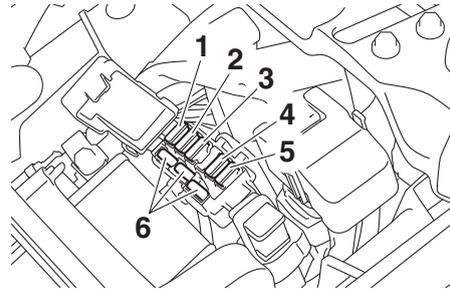
ヒューズ交換

ヒューズボックスと系統別ヒューズはライダーシートの下 (3-28 ページ参照) とカバー A を外したところにあります。(6-2 ページ参照)

ヒューズボックス 1、メインヒューズ、フューエルインジェクションヒューズを交換する場合は、ライダーシートを取り外します。(3-28 ページ参照)



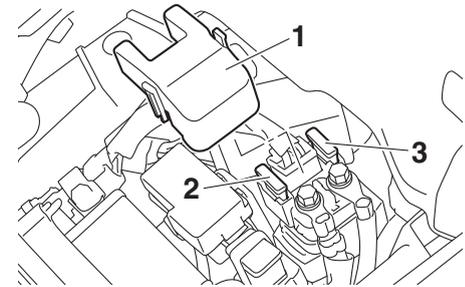
1. ヒューズボックス 1
2. メインヒューズ
3. フューエルインジェクションヒューズ
4. スペアフューエルインジェクションヒューズ



1. ラジエーターファンモーターヒューズ
2. バックアップヒューズ (時計/イモビライザーシステム)
3. 電子制御スロットルバルブヒューズ
4. ABS ソレノイドヒューズ
5. ABS モーターヒューズ
6. スペアヒューズ

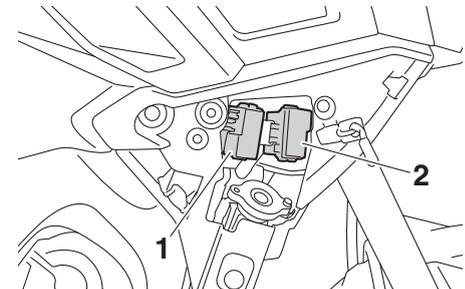
要 点

フューエルインジェクションヒューズを交換する場合は、スターターリレーカバーを外す必要があります。



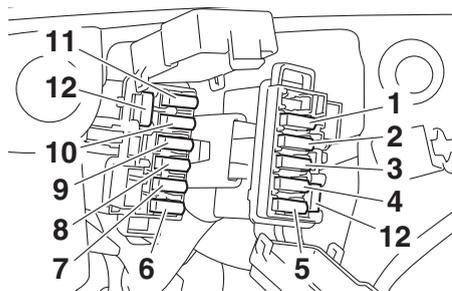
1. スターターリレーカバー
2. フューエルインジェクションヒューズ
3. スペアフューエルインジェクションヒューズ

ヒューズボックス 2 とヒューズボックス 3 のヒューズを交換する場合は、カバー A を取り外します。(6-2 ページ参照)



1. ヒューズボックス 2
2. ヒューズボックス 3

点検整備



1. パーキングランプヒューズ
2. ヘッドライトヒューズ
3. プラグ+12V ヒューズ (DC コネクター、別売アクセサリ)
4. プラグ+12V ヒューズ (DC ジャック)
5. クルーズコントロールヒューズ
6. ブレーキランプヒューズ
7. シグナルヒューズ
8. フォグランプヒューズ (別売アクセサリ)
9. ABS コントロールユニットヒューズ
10. シートヒーターヒューズ (別売アクセサリ)
11. イグニッションヒューズ
12. スペアヒューズ

ヒューズが切れた場合、以下のように交換します。

1. メインスイッチを OFF にします。
2. 切れたヒューズを外し、規定アンペア数の新しいヒューズを取り付けます。

規定ヒューズ:

- メイン:
50.0 A
- フューエルインジェクション:
20.0 A

規定ヒューズ (ヒューズボックス 1):

- ラジエーターファンモーター:
15.0 A
- ABS モーター:
30.0 A
- ABS ソレノイド:
15.0 A
- バックアップ:
7.5 A
- 電子制御スロットルバルブ:
7.5 A

規定ヒューズ (ヒューズボックス 2):

- フォグランプ:
2.0 A
- ブレーキランプ:
1.0 A
- シグナル:
7.5 A
- イグニッション:
15.0 A
- ABS コントロールユニット:
7.5 A
- シートヒーター:
7.5 A

規定ヒューズ (ヒューズボックス 3):

- ヘッドライト:
7.5 A
- パーキングランプ:
7.5 A
- クルーズコントロール:
1.0 A
- プラグ+12V (DC ジャック):
2.0 A
- プラグ+12V (DC コネクター):
2.0 A

3. メインスイッチを ON にし、装置が正しく作動することを点検します。
4. ヒューズを交換してもすぐに切れるときは、ヤマハ販売店で電気系統の点検を受けてください。

JCA12862

注意

- 交換するヒューズは、指定されている容量のヒューズを使用してください。指定容量を超えるヒューズを使用すると、配線の過熱や焼損の原因になります。
- 電装品類（ライト、計器など）を取り付けるときは、車種ごとに決められている「ヤマハ純正部品」を使用してください。それ以外のものを使用すると、ヒューズが切れたり、バッテリーあがりを起こすことがあります。
- 洗車時ヒューズボックスのまわりに水を強く吹き付けしないでください。漏電や短絡（ショート）の原因になります。

JAU29445

灯火装置および方向指示灯の点検

1. メインスイッチを ON にします。
2. テールランプ、ブレーキランプなどの灯火装置や方向指示灯の点灯・点滅具合が良好かを点検します。
3. エンジンを始動し、ヘッドライトの点灯状態が良好かを点検します。
4. レンズなどに汚れや損傷がないかを点検します。

点灯しないときはヒューズを点検（6-15 ページを参照）し、異常がないときはヤマハ販売店で点検・整備を受けてください。

JCA12063

注意

電球は、指定されているワット数・規格のもの（8-1 ページ「製品仕様」を参照）を使用してください。指定以外のものを使用すると、球切れ、作動不良などの原因となります。

JAU29571

運行において異常が認められた箇所の点検

運行中に異常を認めた箇所について、運行に支障がないかを点検します。

お車の手入れ

JAU35124

いつまでも車を長持ちさせるために、お手入れをしてください。
すみずみまで掃除すれば、普段気付かない異常箇所や摩耗が発見でき、故障の予防にもなります。

マット塗装（ツヤ消し塗装）のお手入れ

お車によってはマット塗装が施されています。マット塗装部分のお手入れをするときは、以下の点に注意してください。

JCA13084

注意

- 洗車などでブラシは使用しないでください。塗装を傷つけることがあります。
- ワックスがけはしないでください。外観が変化することがあります。
- コンパウンドは使用しないでください。マット塗装の表面が研磨されて、光沢がでることがあります。

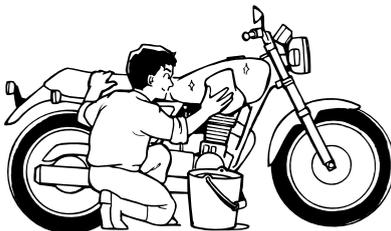
7

洗車

雨天走行後など、車が汚れたときは早めに洗車してください。車をサビやキズから守ります。

- 中性洗剤を使用して洗車した後、十分に水洗いします。
- 柔らかい布で、車に付着した水分をよくふきとります。
- 洗車後、必要に応じて各部にグリースなどを注油してください。
- 車の塗装面保護のため、ワックスがけをしてください。（マット塗装部分を除く）

JAU27795



JWA11931

警告

- 洗車はエンジンが冷えているときにしてください。
- 洗車後、ブレーキのききが悪くなる場合があります。ききが悪いときは、前後の車に充分注意しながら低速で走行し、ききが回

復するまで数回ブレーキを軽く作動させて、ブレーキの湿りをかかわしてください。

- ブレーキディスクやパッドにワックスやグリースなどの油脂類をつけないでください。ブレーキがきかなくなり、事故の原因になることがあります。

JCA12214

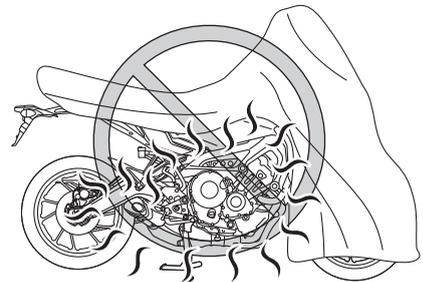
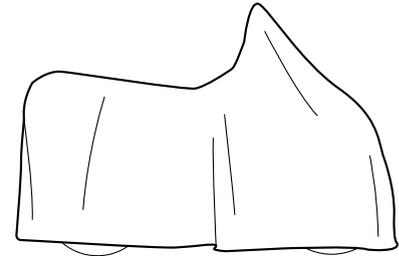
注意

- エアクリューナーや電装品などに水が入らないように注意してください。故障の原因になります。
- マフラー内部に水がたまると、始動不良やサビの原因になることがあります。洗車時はビニール袋をかけるなどして、内部に水が入らないようにしてください。
- ヘッドライト、メーターパネル、カバーなどのプラスチック部品にガソリンやブレーキ液、アルカリ性および強酸性のクリーナー、その他の溶剤などがかかると、ヒビ割れなどの原因になりますので注意してください。また、コンパウンドの入ったワックスは、表面を傷つけますので使用しないでください。
- ウィンドシールド、ヘッドライトレンズ、メーターレンズ、カウル、パネルなどのプラスチック部品やマフラーは、清掃のしかたを誤ると外観を損ねたり損傷したりします。まず、柔らかくて清潔な布やスポンジを使用し、水洗いしてください。もし、汚れが十分に落ちないときは、少量の中性洗剤を水で薄めて清掃してください。中性

保管のしかた

車はできるだけ敷地内に保管し、屋外に駐車するときはボディーカバーをかけてください。

なお、ボディーカバーはエンジンやマフラーが冷えてからかけてください。



注意

長期間お乗りにならないときは、以下のことを守ってください。

洗剤を使用して清掃した後は、大量の水で洗剤を完全に洗い落としてください。洗剤の成分が残っていると、プラスチック部品が損傷するおそれがあります。

- 高圧洗車機やスチーム洗浄機は使用しないでください。水が侵入し、故障の原因となることがあります。

要点

- シートの下方から水を強くかけないでください。内部に水が入り、書類が濡れることがあります。
- 洗車後、雨天走行後、または湿度が高い天候のときなど、ヘッドライトのレンズが曇ることがあります。このような曇りは、ヘッドライトを短時間点灯することで自然に取れます。

アルミフレーム、キャストホイールの取り扱い

日常のお手入れ

清掃は中性洗剤を使用し、スポンジで水洗いします。

(工業用洗剤、みがき粉、クレンザー、金属タワシなどは、傷がつくので使用しないでください。)

洗車後は、乾いた布などで水分をよくふきとってください。

長期間お手入れをしないと、表面だけでなく内部まで腐食します。手遅れにならないように、お手入れをしてください。

警告

変形したり、損傷したアルミフレームやキャストホイールは、修正して使用しないでください。変形したり、損傷したときは、ヤマハ販売店にご相談ください。

注意

- 縁石などに乗り上げるときは、キャストホイールのリムが傷つきやすいので注意してください。
- アルミは塩分に弱く腐食しやすいので、海岸付近や凍結防止剤をまいた道路などを走った後は、すぐに水洗いをしてください。

お車の手入れ

- 保管する前にワックスがけをしてください。(マット塗装部分を除く) サビを防ぐ効果があります。
- バッテリーを取り外し、充電器で満充電にした後、湿気のない涼しい場所に保管してください。また、バッテリーの劣化を抑えるため、3 か月ごとに補充電を行ってください。
- 長期保管後の走行前には、バッテリーの充電、および各部の点検をしてください。
※ 補充電については、ヤマハ販売店にご相談ください。

アフターケア用品について

JAU28086

ヤマハ車には、ヤマハ純正用品をご使用ください。大切なお車の寿命は、使用するオイルの品質により大きく左右されます。また、お車の手入れにも、ヤマハ純正用品をご使用いただくことをおすすめします。

ヤマループプレミアムシンセティック

JAU28114

長期間安定した粘度特性を保ち、高い潤滑性能を発揮させるため、優れたせん断安定性能を実現。また、高温となるエンジン内でのオイルの酸化をハイレベルに抑制。高回転、高負荷下でも高い油膜保持性能を発揮するオイルです。

ヤマループスポーツ

高せん断安定性と同時に、高い低蒸発性を実現。オイル消費を抑え、高速走行、ロングツーリングなど過酷な条件下でも優れた性能を発揮するオイルです。

ヤマループスタンダードプラス

清浄性、高温酸化安定性を実現。温度に左右されない粘度特性を持ち、過酷な条件にも適しています。カジュアルなタウン走行から、タフな業務使用まで対応するオイルです。

エンジンオイル以外のオイルや、その他の油脂液類については、下の URL を入力してホームページを参照するか、「ヤマハ バイク オイル」というキーワードで検索してください。

<https://www.ysgear.co.jp/mc/>

ヤマハ バイク オイル

検索



寸法：	総排気量：	3速：
全長：	845 cm ³	1.619 (34/21)
2160 mm	フロントブレーキ：	4速：
全幅：	ブレーキ形式：	1.380 (29/21)
850 mm	油圧式ダブルディスクブレーキ	5速：
全高：	指定ブレーキフルード：	1.190 (25/21)
1375/1430 mm	BF-4 (DOT-4)	6速：
シート高：	リアブレーキ：	1.037 (28/27)
850/865 mm	ブレーキ形式：	エレクトリカル：
軸間距離：	油圧式シングルディスクブレーキ	電圧：
1500 mm	指定ブレーキフルード：	12V
最低地上高：	BF-4 (DOT-4)	バルブワット数：
135 mm	フロントタイヤ：	ヘッドライト：
重量：	種類：	LED
車両重量：	チューブレス	ブレーキ/テールランプ：
215 kg	サイズ：	LED
乗車定員：	120/70ZR17 M/C (58W)	方向指示灯 (前)：
2名	メーカー/銘柄：	10.0 W
性能：	DUNLOP/D222F	方向指示灯 (後)：
最小回転半径：	リアタイヤ：	10.0 W
3.0 m	種類：	番号灯：
エンジン：	チューブレス	5.0 W
行程：	サイズ：	マーカーランプ：
4ストローク	180/55ZR17 M/C (73W)	LED
冷却方式：	メーカー/銘柄：	エンジンオイル：
水冷	DUNLOP/D222	推奨オイル：
動弁機構：	動力伝達機構：	ヤマルーブ プレミアムシンセティック
DOHC	1速：	ク、スポーツ、スタンダードプラス
配列：	2.666 (40/15)	エンジンオイル量：
直列	2速：	オイル交換時：
気筒数：	2.000 (38/19)	2.40 L
3気筒		

製品仕様

オイルフィルター取り外し時:

2.70 L

冷却水容量:

リザーブタンク (FULL レベルまで):

0.25 L

ラジエーターと全ての経路:

1.93 L

バッテリー:

バッテリー型式:

YTZ10S

バッテリー容量:

12 V, 8.6 Ah (10 HR)

スパークプラグ:

メーカー/型式:

NGK/CPR9EA9

プラグギャップ:

0.8-0.9 mm

二輪車を廃棄する場合は？

JAU36644

廃棄を希望する場合は？

廃棄を希望される二輪車がある場合は、お近くの「廃棄二輪車取扱店」にご相談ください。

廃棄二輪車取扱店とは？

一般社団法人 全国軽自動車協会連合会の登録販売店で、広域廃棄物処理指定業指定店として登録されているお店が「廃棄二輪車取扱店」です。廃棄二輪車を適正処理するための窓口として、店頭「廃棄二輪車取扱店の証」が表示されています。



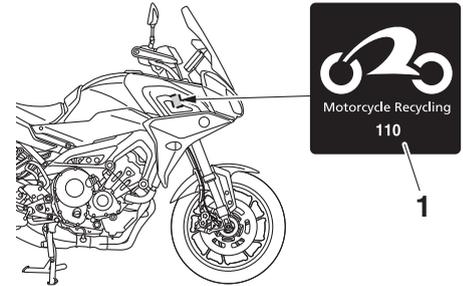
1. 廃棄二輪車取扱店の証

リサイクル費用とは？

廃棄二輪車を適正に処理し、再資源化する費用です。二輪車リサイクルマークが車体に貼付されている二輪車は、リサイクル費用をメーカー希望小売価格に含んでいますので、リサイクル料金はいただきません。ただし、リサイクル費用には運搬および収集料金は含まれていませんので、廃棄二輪車取扱店または指定引取場所までの運搬・収集料金は、お客様の負担になります。運搬・収集料金につきましては、廃棄二輪車取扱店にご相談ください。

二輪車リサイクルマークの取り扱い

この車には、下図の位置に二輪車リサイクルマークが貼付されています。廃棄時に二輪車リサイクルマークの有無を確認しますので、絶対に剥がさないください。二輪車リサイクルマークは、剥がれや破損による再発行、部品販売の取り扱いはございません。剥がれや破損でリサイクルマーク付き対象車かどうか不明の場合は、下記へお問い合わせください。



1. 二輪車リサイクルマーク

廃棄二輪車に関するお問い合わせについて

廃棄二輪車に関するお問い合わせは、最寄りの「廃棄二輪車取扱店」、または下記のホームページへお願いします。
 ヤマハ発動機（株） 二輪車リサイクルシステム
<https://www.yamaha-motor.co.jp/mc/recycle/>
 公益財団法人 自動車リサイクル促進センターホームページ
<https://www.jarc.or.jp/motorcycle/>

ユーザー情報

サービスマニュアル（別売）の紹介

JAU28393

サービスマニュアルには、点検・調整や分解・組立の方法を写真やイラストを用いて説明してあります。車の概要や構造を理解するためにご利用ください。

サービスマニュアルのご注文は、ヤマハ販売店で受けております。部品番号をお知らせください。

サービスマニュアル 部品番号：

QQS-CLT-000-B1J

車両情報

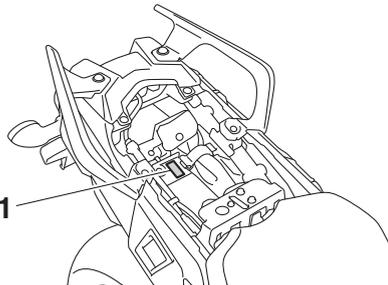
JAU28457

モデルラベル

パーツオーダー、アフターサービスなどに使用します。

モデルラベルは、あなたの車を正確に特定するための情報をコード化したものです。ご相談の際には、車名およびモデルラベルの内容を正確にご連絡ください。

モデルラベルは、タンデムシート下に貼り付けてあります。



1. モデルラベル

あなたの車の情報を記入し、控えてください。

車名は
TRACER900 GT

モデルラベル
製品仕様を示しています。

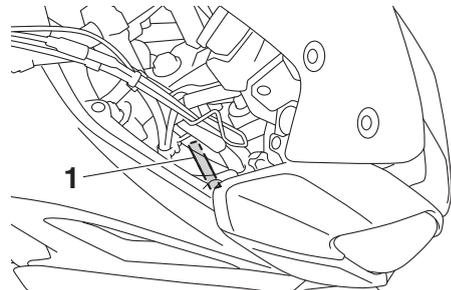


カラーリングを示しています。



JAU50501

車台番号



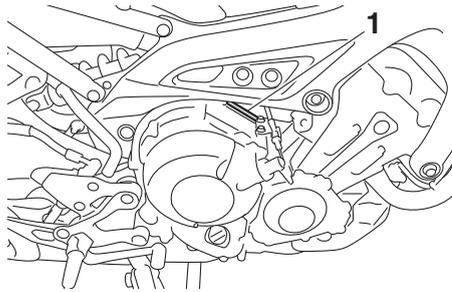
1. 車台番号

ナンバー登録、自動車保険の加入などに使用します。

詳しくは、お買い求めの販売店にご相談ください。

原動機番号

JAU50511

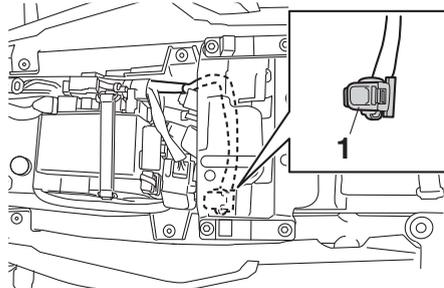


1. 原動機番号

ナンバー登録、自動車保険の加入などに使用します。
詳しくは、お買い求めの販売店にご相談ください。

故障診断コネクタ

JAU73861



1. 故障診断コネクタ

この車には故障診断コネクタが搭載されています。

JAU74841

車両情報の記録に関して

この車両に搭載されているコンピューターは、故障診断や調査、開発を目的として、車両情報を記録しています。
記録された情報は、車両の点検や修理の際にヤマハ車専用の故障診断ツールを接続した場合に限り、ヤマハに送信されます。

モデルによって異なりますが、記録される主な情報は次のとおりになります。

- 車両の状態やエンジンの使用状況
- 排気ガスに関する情報

記録された情報は、次の場合を除き第三者へ開示されることはありません。

- お客様の同意をいただいた場合
- 法的に求められた場合
- ヤマハが裁判で使用する場合
- 車両や個人を特定することなく、ヤマハが統計調査などに使用する場合

索引

- あ**
あなた自身と同乗者のために 1-1
アフターケア用品について 7-3
アルミフレーム、
キャストホイールの取り扱い 7-2
アンダーブラケットの
取り付け状態の点検
(ステアリングシステム) 6-13
- い**
イグニッションサーキット
カットオフシステム 3-39
イモビライザーシステム 3-1
- う**
ウインドシールド 3-33
運行において異常が認められた
箇所の点検 6-17
- え**
ABS 3-24
エアクリナーエレメントの交換 6-6
エンジンオイル 6-3
エンジンオイル・水温警告灯 3-7
エンジン警告灯 3-6
エンジン始動 5-1
エンジンのかかり具合、
異音の点検 6-4
- か**
カバーの取り外し、取り付け 6-2
環境・住民の方との調和のために 1-6
- き**
キーの取り扱い 3-1
ギヤチェンジのしかた 5-2
- く**
クイックシフトシステム 3-24
クラッチ 6-8
クルーズコントロールシステム 3-8
クルーズコントロールスイッチ 3-4
- け**
警告灯と表示灯 3-5
原動機番号 9-3
- こ**
故障診断コネクター 9-3
小物入れ 3-33
- さ**
サービスツール 6-2
サービスマニュアル (別売) の
紹介 9-2
サイドスタンド 3-38
- し**
シート 3-28
シフトタイミングインジケーター
ランプ 3-7
シフトペダル 3-24
車体各部の給油脂状態の点検 6-13
車台番号 9-2
車両情報 9-2
車両情報の記録に関して 9-3
書類入れ 3-32
- す**
スターター／エンジンストップ
スイッチ 3-4
- せ**
洗車 7-1
- た**
タイヤ 6-7
- ち**
駐車 5-3
- て**
TCS スイッチ 3-4
DC コネクター 3-38
DC ジャック 3-37
ディスプレイ 3-10
低速、加速の状態の点検 6-5
D-mode (ドライブモード) 3-23
点検整備の実施 6-1
- と**
灯火装置および方向指示灯の点検 6-17
盗難警報器 (別売アクセサリ) 3-23
ドライブチェーン 6-11
ドライブチェーンの給油 6-12
トラクションコントロール
システム 3-25
- な**
ならし運転 5-3
- に**
日常点検箇所／点検内容 4-1
日常点検の実施 4-1
二輪車を廃棄する場合は? 9-1
- ね**
燃料 3-28
- は**
ハザードスイッチ 3-4
バックミラー 6-12
バッテリー 6-13
ハンドル位置の調整 3-34

ハンドルスイッチ	3-3
ひ	
ヒューズの交換	6-15
ふ	
フューエルタンクキャップ	3-27
ブレーキ	5-2
ブレーキ液量の点検	6-10
ブレーキパッドの点検	6-10
ブレーキランプスイッチの点検	6-9
ブレーキレバーの遊び／ ブレーキペダルの遊び、および ブレーキのきき具合の点検	6-9
ブレーキレバーの握り調整	3-37
フロントフォークの調整	3-34
へ	
ヘッドライト上下切り替え／ パッシングライトスイッチ	3-3
ヘルメットホルダー	3-31
ほ	
ホーンスイッチ	3-4
方向指示器スイッチ	3-4
保管のしかた	7-2
歩行者と他の車のために	1-5
め	
メインスイッチ	3-2
メニュー画面	3-14
も	
モデルラベル	9-2
ら	
ライダーシートの高さ調整	3-29
り	
リヤクッションの調整	3-36

れ

冷却水	6-5
-----------	-----

あなたの街のあなたのお店

最寄りのお客様相談窓口については、メンテナンスノートの
巻末をご覧ください。



QQS-CLT-100-B1J

再生紙を使用しています

PRINTED IN JAPAN
2018.04-0.3×1 CR
(J)